ハワイ大学語学研修の記録

2013/05/31

ハワイ大学語学研修を実施する意義

学生たちは、このハワイ大学語学研修から沢山の学びを得た。プログラムの事前学習で一島正真名誉教授よりハワイ日系移民の歴史を知り、その当時の人々の暮らしとその宗教観を学んだ。観光地として知られているオアフ島には、多くの日本人が日本より移民をし現在の日系社会を作った背景がある。今回の研修では、ハワイ浄土宗別院、そして天台宗ハワイ別院を訪問した。また、ハワイ日本文化センターにも訪問した。更に言えば、ハワイ大学宗教学部学部長モール先生による、日系移民の歴史と取り巻く仏教を学んだ。この、研修の背骨は、外から見る日系移民の歴史を知りながら現代のハワイを学ぶことであった。それ以外にも、勿論、英語力を身に付けることに重点が置かれた。コミュニケーション能力を身に付けるために、ハワイ大学の学生と沢山、話ができた。相手に伝える力をつけること、それが今、求められている。

もう一つ学生たちは学んできた。社会性一　同じ目的を持った学生が30名集まり、行動をすることの難しさ。自分思いだけを通しては、何もうまくいかないことをまなび、集団の中の自分を見出すこと。社会適応能力を高めることで自分を成長させることが出来ること。時間を守り、約束事を守り、自主的に行動すること、これは、今の若い人々が最も苦手とすることを、語学研修の集団の中で学ぶ。

ハワイ大学語学研修を通して学ぶことはたくさんある。

この号の内容

語学研修を終えて 1

各学生レポート..... 2

研修資料..... 3

付録 4

重要な日付

02/08　成田空港に集合でした

02/26　ダイヤモンドヘッド登山

03/03　思い出の写真

内向化が進む大学の中で

日本の学生に「内向化」が進み、その結果「海外に出ない」「留学は面倒」「わざわざ苦労するのは」という学生が増加傾向にあることが報告されている。確かに、大正大学においても同様の動きや傾向がここ数年見受けられる。特に男子学生の内向化は顕著になっているように思われる。今回のハワイ大学の研修を通しても参加者の全体数で女子学生８に対して男子学生２の割合になっている。男子学生は更に、内向化が進んでいる。この主な原因は、他大学でも同じであろうが、大学生活の中で時間的な余裕と金銭的な余裕が持てない学生と言語での障壁が、その原因となっているように推察される。このプログラムには、保護者のハワイへのステレオタイプ観が参加者少なからず見え隠れしていた。

本校が実施している「ハワイ大学春期集中講座」も上記のような影響を受け、参加者の数が少なかったが実施する事で一人でも学生を海外に送り出す機会を与えることに重きを置きプログラムを実施している。

表現学部表現文化学科　井口　卓也

「ハワイ」という言葉を聞くと人々はどんなイメージを持つだろうか。多くの人は「南の楽園」、「観光地」、「日本語も比較的通じる場所」などといったイメージを抱くことが多い。私自身も実際に訪れる前はハワイなんて日本人の観光客ばかりで英語の勉強になるのだろうかという不安でいっぱいだった。実際ハワイに到着して通りを歩いていると日本人が多く、日本語が耳に入ってくることも多かった。しかし少し歓楽街を離れると街並みや風景から海外に来ていることを実感させられた。大学内では日本語に触れることはほとんどなく、素晴らしい先生方や仲間たちに囲まれて、英会話力の向上に励むことができた。私は2月9日～3月2日の約3週間の滞在期間を通して、ハワイ大学での講義や現地の人々との交流からハワイの人々や文化、自然に関する新たな発見を得ることができた。その中でも特に印象に残っていることを語っていきたい。

ハワイは元々アメリカの領土ではなく、ひとつの王国であったため本土の文化とは全く違った文化が形成されている。その代表として多くの人に知られているのが「フラダンス」や「サーフィン」である。「フラダンス」はひとつひとつの動きにハワイの人々の考え方や物の見方が表現されている。「フラ」の講義では、ただ踊るだけではなくひとつひとつの動きの意味も教えていただくことができた。その中でも私が注目したのが「mana」という言葉だ。これはハワイの人々がもっとも大事にしているパワーみたいなもので、おへその辺りに集まっている。おへそは人が生まれるときに母親と繋がっている部分なので人の原点なのだと先生は言っていた。これは日本の「気」、インドの「チャクラ」に匹敵するものらしい。全く違う土地で全く違う文化を経てきても、こういった部分で似た部分があるのはとても興味深いことだと思った。特に日本とハワイの文化については似た文化が多いことも感じることが多かった。例えば、相撲や腕相撲、餅つきに似たものもあった。こういった似た部分があったことも日本人は移民としてハワイを訪れて溶け込むことができた要因なのかもしれない。そして今でも日本人に愛されているのだろう。

ハワイと日本人との関係は1868年（明治元年）の集団移民から始まった。今回の語学研修では日系移民に関することを学ぶ機会も多かった。私たちが訪れた「ハワイ浄土宗別院」、「天台宗ハワイ別院」、「ビショップミュージアム」、「ハワイ日本文化センター」や大学の講義で多くの日系移民に関する資料やお話を聞くことができた。日系移民たちは最初の頃は文化の違いから生じる疎外感や差別感からたくさんの悲しみや苦しみを感じていた。しかし彼らはどんなに困難な状況に陥っても屈することなく日本人であることの誇りを持って暮らしていた。そしてハワイの中での日系人の在り方というのも時代の流れを通して大きく変わり現在に至っている。というお話を聞いて今の私たち日本人が彼彼ら日系移民たちがそうしたようにしっかりと日本人としての誇りを持って世界の人々と渡り合っているだろうかと深く考えさせられた。はっきり言って私は日本人であること誇りを意識せずに暮らしていた。ほとんどの日本人がそうなのではないかとも思う。ハワイの人々は日本人に比べて自分の祖国の文化や歴史についてしっかりと理解し伝えることができていた。だからこそハワイの文化や歴史は世界中の人に広まっているのだ。今後私が私の夢である世界に目を向けた仕事をする上で、ただ英文法や英会話の練習をするのではなく、まずは自分が日本人であることを誇れるような人間になろうと思った。そして日本がどんな国でどんな人がいてどんな歴史を経てきたかを自分の口で伝えられるように残りの大学生活を送っていきたい。

人間学部人間科学科　安齋実菜子

「海外に行くと価値観が変わる」と私の周りの人達は口をそろえて言う。そしてそれを口にする人達の表情は、一様に達成感に満ち溢れているように感じられる。本当に海外に行くことで私にも何か変化があるのだろうか、変わるとしても一体何がどういう風に変わるのだろう？三週間もの期間、私は生活がきちんと送れるのだろうか？不安と期待が入り混じって鼓動が早まる胸を抑えつけながら、今回の研修で、私は初めて日本の外に足を踏み出した。

今回の三週間の研修では様々なイベントが予定されている。初日は暑い日差しに目を細ませながら、バスに乗ってハワイの景色を眺め、二日目には、現地で開かれていたお祭りにボランティアとして参加し、食べ物やTシャツの販売を行った。海が見える広い芝生の公園で陽気な音楽を聴きながらボランティアを行った。慣れない外国の硬貨と早い英語に戸惑いながらも接客を行っていると、「アロハ」と声をかけると「アロハ」と笑顔が返ってくることに気付く。日本ではなかなか見られない光景だ。同時に、挨拶が返ってくることで嬉しくなり、もっと声をかけようと声量が大きくなり、笑顔が増える仲間や自分の存在にも気付く。また、ハワイでは人と人がぶつかった時にもきちんとお互いに言葉を交わすことが多い。「すみません」と言うと「気にしないで」「大丈夫」、道を譲った時には「ありがとう」など、返事が返ってくることの嬉しさ、その嬉しさから自分もまた一言声をかけたいと思える。人に優しくしたいと思うためには、自分が優しくしてもらった時の記憶を忘れないことが大切なのかもしれないと、このことから感じた。

いよいよ授業が始まると、自分の語彙量の少なさに驚かされた。伝えたい言葉や感情を上手く日本語から英語に変換できなかったり、英単語を知らなかったり、簡単な英文法が頭に浮かばなかったり、いつも使わない言語を使うということはこんなにも労力が要ることなのかと思い知らされた。また、ハワイに来て初めて和英辞典の大切さが身に染みた。日本では英和辞典に比べ、和英辞典を使う機会が少ない。自分が和英辞典を使ったことがないことさえ、日本に居た時は気付きもしなかった。英語は、自分が普段喋りたいことを単語に直して話すことが大切なのだと、肌で感じることができた。まず最初に、言いたいことがあるから辞書を見て、覚えて、話せるようになっていくものなのだと実感した。話したいと思うから学び、上達していくものなのである。今までは文法を先に学び、習ったものの中から会話を成立させようとしていた。それでは上手くいくはずがない。会話とは自分の感情を表すもので、その時々の繊細な自分の感情を、今まで習った英単語の中からだけで表現しようとすることは難しいのである。難しい英単語を暗記するよりも、自分が言いたいと思った言葉や日常生活で使うような単語から覚えていくことが、英会話の上達に繋がるのであろう。後者のやり方の方がやる気も興味も湧くことに加え、何より身につくと考える。

日本を出て、外国人も日本人も同じ人間なのだなとつくづく実感した。ハワイには優しい人もいれば怖い人も、お金を儲けようとしている人もいる。私が考えていた以上に優しい人々に出会ったし、同時に、私が考えていた以上に怖くて、リアルな人々にも出会うことが出来た。日本の学校で英語を学んでいると、外国人は教科書の中だけの存在のように私には感じられた。外国人の存在が希薄で、教科書に載っている英語も、実際に使われているものという実感が湧かない。英語を使って生活を営んでいる外国人の想像が上手くできなかったのである。しかしハワイに来て、彼らがもちろん紙面の中だけの存在ではないということを感じることができた。外国に来ても私は人間と会話をしている。彼らが外国人というだけなのである。彼らにもそれぞれ好き嫌いがあって、彼らにとって話しやすい日本人、話しにくい日本人が居る。留学中だからといって、自分が外国人全員にちやほやされることは絶対にない。何気ない会話の一つで気に入られたり気に入られなかったりするのは日本と同じで、きっと世界のどこでも同じなのだろうと感じた。

私は、何をするにしても、肌で感じるということが一番、物事を理解するのに大切なことだと考えている。実際に感じることで、感情が心の奥まで浸透する。そして自分の中で感情と理論が同じ比率で組み合わさった時、初めて物事を理解できるのだと考える。日本で机上の勉強をしていただけでは、「感情」がついてこなかった。今回ハワイに来て、様々なことを実際に肌で感じられたことは、これからの私の考え方や生き方に良い影響をもたらしてくれるだろうと考えている。

そして、会話をしたいという感情を、日本人も外国人も持っている。英語は、会話を行うためのコミュニケーションツール、手段に過ぎないのである。英語が読めるようになることがゴールではない。英語を使ってコミュニケーションをとること、そのために英語を学びたいと思えるようになった。そう思えたことは、今回の研修の収穫の一つである。ハワイ大学に通って英語だらけの環境に身を置くことで、少しずつ英単語が聞き取れるようになり、このまま外国に居たら少しは英語が解るようになるに違いないという小さな期待が生まれた。英語が話せるようになることで、自分がどれだけ変わることができるのか、わくわくしてくるのである。もし英会話ができるようになれば、英会話が出来なかった時のストレスなど、「そんなことで悩んでもったいない」と感じられるに違いない。そうなりたいから、私は英語を話せるようになりたいのである。

今回ハワイに行ったことで様々なことを感じ、考える事が出来た。外国に行って自分が劇的に変わるというよりも、外国に行くことで何かを感じ、またそれを生かし、自分を変えていくのは他ならぬ自分自身なのだと気付くことができた。今回の研修の経験をこれからに生かしていきたい。まずは英語から、勉強していきたいと考える。

表現学部表現文化学科　岩井　玲実

今回の春期ハワイ語学研修では、異文化そしてハワイの歴史などに触れ、たくさんの貴重な体験を通して多くのことを学んだ。

私が最も印象に残ったのは、研修プログラムの一貫であるフラダンスの授業であった。フラダンス事態はとても楽しく、自身の身体をもってハワイ伝統の文化を体験できたことはとても貴重な体験であった。私たちにそのフラダンスを教えてくださったKumu Hula（フラダンスの先生）の Ike先生はとても陽気で全身からパワーのあふれる方であり、彼女の言葉はまっすぐ私たちの心に伝わってきた。伝統を受け継ぎ、継承している彼女が私たちに伝えた、いかに文化というものが大切か、そして私たち自身がその文化を守っていかなければ、いずれ文化は廃れ、死んでいってしまうという強いメッセージはとても深い意味をもっており、自国について考えさせられた。あなたがしなければ、だれもあなたのためにしてくれないという言葉は、彼女の力強い声とともに今でもはっきり覚えている。日本ハワイ文化センターでは、日系移民の歴史を振り返ることが出来、いかに苦難と直面し乗り越えたかということを様々な資料を通して知ることができた。いまでこそ南の楽園とされていて、日本人に大変人気のあるハワイだが、その背景にある歴史を知ることができたというのはとても意味のあることであった。

また、日本を外国から客観視することにより、自国の良さや魅力を再確認することもできた。まず、第一に感じたのは日本の治安の良さである。門限があったため夜中に外出するということはしなかったが、ガイドの方や大学の先生なども口をそろえて夜中に外に出るのは危険である、また一本裏の道や暗い道には入るなと私たちに伝えた。なぜなら、ハワイもやはりアメリカなのでドラッグの売買や強盗などのさまざまな事件がいまだになお起こっているからであった。夜になると、ドラッグを使用し気分が高揚している人も出歩いているので危ないとも言われた。そのような環境に慣れていない我々日本人にとってはとてもショッキングなことであるが、それが今のアメリカ社会であるという辛い現状を肌で感じた。そして、日本の食文化についても見直すことができた。ハワイにはお寿司屋さん以外にも多くの日本食レストランがあり、どこもとても混んでいた。授業の一貫として、現地の学生と話した時もどの生徒も日本食が大好きだということだった。理由は、おいしいから以外にも健康的であるという意見であった。しかしながら、やはり同じ日本の食品でも実際に日本で売られているものよりハワイで売られている方が高額であり、スーパーなどで日本食とされながら販売されている調理済み食品も品質は低めというものが多かった。日本食の人気、また日本における日本食の質の良さに、感心させられた。外国の方から聞く日本の印象を知るのもとても興味深かった。

約三週間という短い研修期間ではあったが、日本に住んでいてはできないことや、知らないことがたくさんあり、それらを実際に見て、感じて、吸収できたのはとても貴重な経験であった。その、多くの経験を通して、物事をより国際的な視野で捉えることが出来るようになったことは、私にとって最大の収穫である。より積極的に海外へ行き、またハワイへも戻りたいと感じた。とても充実した研修であった。

表現学部表現文化学科　角野　麻美

私はこの語学研修で、いくつもの貴重な体験をしました。２日目に参加した、ウクレレフェスティバルでのボランティア活動では、少しの時間でしたが出店で現地の方と働くというめったにできない体験をすることができました。１つのお店にたった１人で送られ、最初は不安でいっぱいでした。緊張して、お店の方に話しかけられてもただ返事をすることで精いっぱいでした。しかし時間が経つにつれて、だんだんと話を広げられるようになったり、お客様に対しても、積極的に対応できるようになりました。

ハワイで３週間過ごしてとても印象深かったことは、人々も街の雰囲気も、穏やかでおおらかだということです。いくつか驚いたことがあるのですが、私が最初に驚いたことは、バス停に時刻表がないことです。日本と比べてみると、有り得ないことだと思いました。特に東京は時間に追われる人ばかりで、電車やバスが時間通りに来ないと多くの人が迷惑しますし、クレームが飛び交うと思います。私自身も、電車が時間通りに来ないとイライラしますし、予定があって人と待ち合わせている場合は本当に困ります。しかしハワイでは、バスが何分も来ない場合、待っている人同士で「遅いねえ」と話しているだけで、バスが来てから誰も運転手に文句をいうわけでもありませんでした。そして、東京では昼間もスーツ姿の、見るからに社会人という人を大勢見ますが、ハワイでは全く見かけませんでした。バスの運転手もアロハシャツ、大学の先生も比較的ラフな格好で、スーツ姿の人は一人も見ませんでした。これは、天候が暖かいからスーツが暑くて着ないのか、それとも仕事場にそんなにきちっとした服装で行く必要がないという人々の考え方からなのか、とても気になったので調べてみようと思います。

私たちは飲食店に何度か入りましたが、ここでもまた驚きがありました。華の金曜日の夕方で、それなりにお客さんが入っているファミリーレストランだったのですが、私が見た限り従業員は１人しかいませんでした。お会計のカウンターには何組ものお客さんが会計を待っていて、入り口から入ってくるお客さんも、席に通されるのを順番待ちしていました。私は友達と「従業員を増やせばいいのにね」と話していました。日本の感覚だと、そこそこ混んでいるレストランで従業員１人は、誰から見てもおかしいでしょう。「待つ」という行為はたいていの人が嫌うものだと思います。しかし、そのレストランにいた現地の人々は、いくら待たされても怒る人は１人もいませんでした。先ほど述べたバスのこともそうですが、私はハワイの人々の気持ちの穏やかさに脱帽しました。

私は、海外での大学生活がとても楽しみでした。不安もたくさんありましたが、授業内容や大学自体のことを、日本と比べることにわくわくしていました。授業では、先生は英語を話す機会を私たちにたくさんくれました。昨日どこへ行って、誰と何をして、何に驚き、どうだったか、生徒が一人ひとりみんなに話すということを授業の初めに行いました。毎日ハワイならではの話の中から新たな発見があり、どんな話が聞けるのか楽しみでした。

２週目に入ると、先生は授業について私たちに意見を求めました。４つくらいのグループに分かれて、もっと学びたいこと、このまま続けてほしいこと、やめたほうがいいこと、新しくやってほしいことをそれぞれ出し合い、先生がホワイトボードに書いていきました。そして、先生と学生全員で、ひとつずつ「これはいい考えだ」「これは必要ないんじゃない？」というように話し合いました。先生は、アメリカではこのように学生に授業評価をしてもらい、授業に取り入れることが多いと言っていました。学生が本当に学びたいことを知るのが大切だ、と言っているのを聞いて、私はすごく感動しました。日本の大学でもこのような取り組みをしてほしいと切実に思いました。

ハワイ大学の学生とのInterchangeでは、毎回得るものがたくさんありました。１時間では足りないくらい、会話を楽しむことが出来ました。ハワイのおすすめのビーチ、洋服店、レストランなど、現地の学生が詳しいことも聞くことができましたし、ほかにも映画、食べ物、動物、文化など色々な話題について話しました。現地の学生の話を聞いていると、なるほどと思うような表現が出てきて、「こういう時はこういうふうに言うのか」と感じた場面がたくさんありました。一方で、やはり伝えたくてもどうしても私の英語力では伝わらなかったこともあって、とても悔しく、「もっと英語が話せるようになりたい。もっと英語を身に付けなくては。」と思い、学習意欲につながりました。このような色々な体験から、ハワイ大学では、英語を勉強することが心から楽しいと思いました。

放課後には大学内のスタジアムでバスケットボールの試合を見ました。大学生とは思えない、まるでＮＢＡの試合を見ているような迫力でとても興奮しました。ほかの日には、全員でハワイ日本文化センターに行き、私たちの知らないハワイを知ることができました。歴史については驚くことばかりでとても勉強になりましたし、日本に帰ったら誰かに話したいと思っていました。やはり外国の文化を学ぶことは本当に興味深く、もっともっと知りたいと感じました。

このハワイが私にとって初めての海外でしたが、様々な貴重な体験をすることができて、もっと海外に出たくなりましたし、外国で勉強したいと感じました。ハワイでの経験は一生忘れないと思います。

表現学部表現文化学科　菊池ちなみ

三週間のハワイでの生活は、私の人生において大変貴重な経験となった。

ハワイで見るもの食べるもの触れるものや、人との交流などの全てが今までに経験したことの無いものであった。ハワイでの経験によって、私の世界を大きく広げることができた。今までの私の世界は、日本だけであった。しかも、私の知っている日本は、自分の回りのことだけで、日本のことを本当に理解していなかったことにも気づかされた。外国で過ごすことによって、今まで気付きもしなかった日本の伝統や文化を考えてみたり、外国人から見た日本を知ることができるのだ。

現地の人や、ハワイで出会った外国の人に「私は日本人だ」と自己紹介すると、沢山の人が興味を示して笑顔をくれる。そこで私は、日本人や日本が海外の人々に愛されていることを知り、日本人はもっと日本の文化を誇りに思うべきだと感じた。私が出会った人は、日本の寿司やうどんが好きで、アニメや漫画のワンピースを面白いと言ってくれたり、日本のアイドルを知っていたり、日本に行ったことがある人たちが多く、何かしら日本の文化を誉めてくれる。

「日本人は礼儀正しくて真面目で立派だ。日本人が好きだ。」と言ってくれる人が、ハワイには大勢いる。観光に来た日本人が礼儀正しくきちんとしていたからである。また、ハワイと日本の間にある歴史も関係しているともいえる。日本で明治時代が始まる頃、大勢の日本人が新しい生活を求めてハワイへ渡った。サトウキビ畑での過酷な労働を突き付けられ、それに耐えて働き続け、時には移民同士で力を合わせて労働条件や環境の改善に努めた。そしてハワイで家族を増やし、日本とアメリカ両方を愛し文化や伝統を受け継ぎ、今のハワイを築きあげてきたのだ。昔からあるハワイと日本の深い関わりのおかげで今、日本人はハワイの人々に受け入れられているのであると感じた。

沢山の日系人や日本人が暮らしているといっても、ハワイはアメリカである。アメリカやハワイの文化に驚きの毎日であった。例えば食文化では、日本の料理とは量も味付けも全く違うのだ。アメリカの一人前の料理は、日本の二、三人前と言っても過言ではない。量が多くて食べきれない上に、味付けもケチャップやソース、チーズ、塩など端的なものが多く、味に飽きてしまう。ケーキやクッキー、アイスクリームなどのお菓子はカラフルでとても可愛らしいのだが、とにかく甘い。日本の出汁を使った料理や、手間暇かけて作った繊細な料理の素晴らしさを実感することができた。

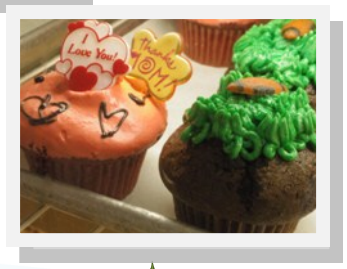
海外で生活して自分の体験や、人との交流によって、初めて日本の文化の素晴らしさを実感でき、誇りに思うこともできた。しかし、それは問題であると言える。日本で暮らしていても日本独自の文化や伝統に気が付いていない、そして考えていないということになるからである。自分の国を知らないというのは恥ずべきことだ。実際に日本について質問され、答えることができず「自分の国のことも解らないの？Wow. . . 」といった表情をされた。私が北海道で生まれ育ったことを話すと、北海道のアイヌ民族について質問されたことがある。私はアイヌのことを詳しく知らないので、質問にちゃんとに答えることができなかった。北海道のことを誇りに思っていたけれど、大事な歴史を知らずにいたことを大変恥ずかしく思った。

ハワイの人々は、ハワイに誇りを持っていて、ハワイを愛している。ハワイの良いところもそうでないところも、それぞれ考えを持っている。ハワイに関する質問を、誰にどんな質問をしてもしっかりと答えてくれる。自分の国を知り考えるということが、日本人には足りない。自分の国をよく知り、国についてよく考えることが本当の愛国心だといえる。日本人はもっとハワイの人々の愛国心を見習うべきだと感じた。

滞在中、バレンタインデーが重なった。そこでも文化の違いを感じることができた。アメリカ人には日本人には無い遊び心や、物事を楽しもうとする心やエンターテイメント性があるのだ。バレンタイン当日になると、ハワイ大学のキャンパス内は、赤やピンクに染まる。学内のカフェには、バレンタインカラーのバルーンや花が飾られ、バレンタインのムードを部屋いっぱいに漂わせている。教室のある建物内や広場では、音楽のDJブースが設けられており、音楽に合わせて人々がダンスをしていたり、ローカルラジオ局やHIV予防活動団体など、様々な団体が机やブースを設置したりしてバレンタインデーを盛り上げていた。学内でイベントごとが行われていることに大変驚いた。バレンタイン以外にも、毎日のようにイベントやパーティーのチラシが配られていて、日本にはない“ノリ”の良さや毎日の楽しみ方を実感した。

海外にいると「こういう文化は日本にはないな」「日本とは文化がことなるなあ」と、日本と外国の文化の違いを体験する。日本人は外国にいる間は「私は日本人」という意識を持って過ごすことができる。日本にいる間はどうだろうか。日本はアメリカやヨーロッパのように様々な人種が混ざった国ではないため、日本にいては異文化を体験することがなかなかできない。異文化体験が、日本について考えることのきっかけであるのならば、日本人は日本にいる間、自分が日本人であることを忘れてしまうでのではないか。ハワイの人々は、ハワイやアメリカに対して自分なりに考えや誇りを抱いており、アメリカ人であることやハワイアンであることの自覚がある。

ハワイで過ごすことによって、私は日本人であることの自覚を持つことができた。しかし、私はまだまだ日本を知らない。ハワイの人々が私にしてくれたように、私も外国の人々に日本の良さや日本の面白いところを伝えることが出来るようになりたい。



表現学部表現文化学科　齋藤有里

我々日本人は中学校に入学すると、今まで小学校で学習した教科に加えて英語を勉強するようになる。よって高校を卒業するころには我々は英語を６年間勉強していることになる。しかし６年という長い間勉強をしているにもかかわらず、我々は一向に英語を使いこなすことができない。実際、私は英語の勉強をし始めて7年経つわけだが、今回の語学研修の初めの頃はろくに買い物もできなかった。いくら勉強を続けていても、実際に使いこなすことができなければ意味がない。私は今回の語学研修によって、日本は英語教育の方法の見直しをすべきだと考えた。

私の経験上、中学高校の英語の授業は英文を日本語に訳す作業が主な内容であった。英文の中に出てきた構文や単語をその都度学習していくといった流れである。よって我々は中学高校の6年間で英文を読み取る能力を身につけていったことになる。確かにこの学習によって我々は基礎の構文や単語を覚えることができた。しかし私は今回の研修によって、我々は英語で会話をする能力が非常に乏しいということを痛感した。相手が何を言っているのかがわからない、または、自分が伝えたい事を英語に変換して話すことができないのである。語学の勉強をしているのならば実際にその語学で会話をしてみたいものである。うまく会話をすることができれば今までの自分の努力の成果を実感することもできる。よって私は学校で英語の勉強をするだけでなく、新たに英会話の勉強も行うことを推奨したい。

日本人にとって英会話の勉強をするにあたっての一番の難関は恥ずかしさである。文法や単語を間違えることの恥ずかしさ、英語で返事や反応することの恥ずかしさなどだ。これらの事を恥ずかしがっていたら一向に英語で話すことはできない。よって英会話の能力を向上するためには、いち早くこの英語に対する恥ずかしさを取っ払い、英語で会話することの楽しさを体感するべきである。よって私が考える新たな英語の勉強方法のまず一つ目はイングリッシュタイムである。これは文字通り英語でしか会話をしてはいけない時間である。最初から先生と会話をするのはハードルが高いので、まずは友人と会話をすればよい。もちろん辞書を使ってもよい。これは自分と同じ語学レベルの人間と話すことによって、お互いに何を話しているのか理解しやすく、また緊張せずにラフな状態で英語を話すことができる。少しずつでもこのイングリッシュタイムを続けていれば、自然と英語での返事や質疑応答ができるだろう。

私は今回の語学研修でハワイ大学に通い、授業を行う教室はイングリッシュルームと名付けられていた。そこでは教師とはもちろん、生徒同士でも英語で会話しなければならない。最初の頃は日本人同士で英語を使うことに抵抗があったり、間違える事を恐れたりしてよく日本語が混ざってしまい、先生にも注意された。しかし研修が終わるころには日本語の使用回数はぐっと減り、英語で相槌をするほどにまでなった。教室を出てもなお無意識で英語で会話をすることも何度もあった。

そして二つ目は教師が英語で授業をするということである。これはリスニングの能力を養うためである。中学高校でも時たまCD教材を使ってリスニングの学習をすることはあったが、月に1,2回の学習では私にとってリスニング能力の向上は難しかった。しかし、たった3週間英語での授業を行っただけでこの研修に参加した全員のリスニング能力がぐんと上がったのである。次第に聞き取れる単語も多くなったし、先生が何を話しているのか分かるようになっていった。また、リスニング能力の向上のためには英語の映画を見ることも効果的である。映画の中の会話はとてもスピードが速く、聞き取るのは少し大変であるが、ところどころで先生と内容のおさらいをすることでストーリーの流れをつかむことができる。早い会話に耳が慣れてきたら海外での買い物や会話もスムーズにできるようになる。そしてなにより映画を見ることで生徒は授業を楽しむことができる。楽しく勉強ができるというのは英語習得の最大のポイントである。

語学の学習において基礎の勉強をすることはとても大切である。よって今までの授業を全て一新する必要はない。苦手な構文の授業を英語でされては余計に英語が嫌いになるだろう。しかし長期間英語の学習をしているのに実際に会話ができなければいまいち学習の効果を実感することができない。とてももったいない事である。今私は英語の学習にとても意欲を持っている。こんなことを思ったのは7年間英語の学習をしていて初めての事である。それは今までの英語の学習と一変した英会話の授業をこの研修で行い、英語の学習が楽しいと思えたからである。私はこの気持ちをもっとたくさんの学生に早い段階で感じてもらいたい。せめてある程度基礎の学習が固まってくる高校からは、今までの英語の授業だけでなく英会話の授業も取り入れるべきだと私は考える。

表現学部表現文化学科　若生　紗也加

ハワイでの３週間という長く短い語学研修が終わり、日本へ帰国してから何日か経ちました。このプログラムに参加を決めたのは英語に多く触れられる生活がしたいと思ったからです。大学で英語を専攻していますが、英語を使う授業は学年が上がるごとに減っていたのでこのプログラムはとても良い機会だと思いました。参加が決定してから昨年の１０月から何度も事前授業を重ね、ハワイについて、現地での危機管理など学習しました。ハワイを訪れるのは今回が初めてで今まで英語圏の国に行った事がなかったので英語が飛び交う国で自分の英語力で対応できるか不安でした。その不安も大きかったですが寒い日本から暖かいハワイに行ける嬉しさもいっぱいでした。

成田空港２１時発の飛行機で日本を離れ６時間飛行機内で過ごしました。ホノルル空港に到着したときには現地時間は朝の８時でした。体は眠いのに対し周りは朝でこの日生まレレピクニック”というイベントにボランティアとして参加しました。私たちはカレーうどんやT-シャツの販売や、フルーツカップの歩き売りをしました。英語を使って接客したことが初めてだったので、英語を使えた嬉しさと商品が売れた嬉しさでいっぱいでした。３日目からハワイ大学での学習が始まました。まず、ハワイ大学の敷地の広さに驚きました。大正大学の何十倍の広さで校内にはスタジアム、美術館、カフェ、ヨーグルトショップなど日本の大学では見たことのない設備ばかりでした。また、図書館は１つだけではなく３つあります。校内は緑がとても多く(写真１)公園のような大学で迷子になってしまうくらいの規模でした。ハワイ大学での授業は教材を進めるだけではなく、発音練習、休日過ごした事を英語で発表、題材を決めてクラス全員英語でディスカッションしました。週に３度Inter Changeがありハワイ大学の生徒と１時間交流する時間が設けられ、英語で自分の事を紹介したり、ハワイ大学の事を知る良い機会で、私は毎回Inter Changeを楽しみにしていました。Inter Change以外にもハワイ大学の生徒に対し質問を考えインタビューをして実際にハワイ大学の生徒の意見を聞く事ができました。話しかけるときに緊張して初回は１人にしかインタビューできなかったけれど２回目は５人にインタビューできました。この時に英語を使う恥ずかしさと英語が伝わらなかったらどうしようという不安がなくなりました。授業ではハワイ伝統のダンスであるフラダンスも習いました。フラダンスの動作や言葉には色々な意味があって、先生には“Fula”ではなくて“Hula”だと注意されました。簡単に見えたフラダンスは実際やってみると力強く、レッスン終了後には汗だくでした。フラダンスを本場のハワイで習えてとてもよかったです。

課外授業では、BISHOP MUSEUM, ハワイ日本文化センター、HONOLULU MUSEUM　OF　ARTSに行きハワイの日本移民の歴史や、ハワイにさまざまな人種の人がいる訳も学習しました。日本とハワイには昔から共通の歴史があり日本人がハワイに初めて移民してきた人たちは、ハワイを楽園だと思い楽しみにしていたが、着いたら朝早くから夜遅くまで働かされ、時にはムチでたたかれ労働を強いられる悲惨な生活をしていた事も知りました。その先移民の人たちのお陰で今現在も日本とハワイの関係が深く、日本人が安心してハワイを訪れる事ができるのだと感じました。また、私たちの大学は仏教大学なのでハワイにある浄土宗と天台宗の別院を訪れ、事前学習で練習した般若心経を唱えました。ハワイの浄土宗の別院(写真２)は外装が真っ白で２階建ての教会のような造りになっていて日本とは異なる造りでした。

ハワイのレストランに行くと場所によってはチップを払わなければならなくて、このチップ制度が大変でした。いくらチップを出せば良いのか、どのタイミングで出せば良いのか分からなくて戸惑いましたが、伝票に代金の何%チップを払えば良いか表示されていたお店があったのでその割合を参考にしてチップを出しました。３週間と滞在期間が長かったので外食だけでなく自炊もしました。食材を調達するためにスーパーマーケットに行きました。野菜を買う際に値段の表記がg(グラム)ではなくeach,LB,perとみた事のない単位があって店員に聞くことから始めました。店員さんはとても親切に量りを使ってperの意味を教えてくれました。ルームメイトとは３週間ずっと行動していたので学校にいる時以外でもホテルや買い物の時にも英語で会話する事を心がけました。

このプログラムに参加して、日本では体験できない英語の学習が出来ました。３週間毎日英語に触れる事が出来たので日本に帰国してからも英語を話す事に抵抗なくなり、英語で文章を書いたり、映画を字幕なしで観ることに挑戦し、英語の学習にとても積極的になりました。語学学習だけでなく日本とハワイの歴史も学べたので大学生活で１番の経験になりました。この経験をきっかけにこれからも英語を勉強していくつもりです。

表現学部表現文化学科　酒井　望美

今回のハワイ研修は私にとって初めての海外経験の場でもあった。そのため、海外に対する不安も多かった。しかしながらそれを打ち消すほどの充実した日々を過ごす事ができた。そして、一回りも二回りも成長することができたと思う。

日本とハワイを比較してみて始めに感じたのは気候の違いだ。とにかく暑い。ハワイでは寒い時期だと言われているがそれでも一日中半袖で過ごす事ができるくらいだ。そのため日本では考えられないほど成長した植物を至る所で見る事ができた。それから、ちょうど雨期だったので突然の雨に遭遇する事も多々あったが、日本の通り雨と違い大量に降っても気候の違いからなのか、カラッとしているのですぐ乾く。

次に驚いたのは、ポジティブな意味でみな周りの目を気にしていない、という事だ。具体的には、太っていてもショートパンツを履く、ヘソが出る服を着る、などだ。日本なら隠してしまいがちだがみんな堂々と着こなしていた。UHのTシャツやパーカを着ている学生もいて、日本で言えば自分の大学の名前が入った服を大学で着ていることと一緒なので、ハワイの学生は自分がいいと思ったものは気にせず着る、ということなのだと思った。もうひとつは、カップルが人前でもハグやキスをすることだ。ハワイで現地の友人に会った時、友人が彼氏との別れ際になんのためらいもなく私の前でキスをした時は驚いてしまった。それ以外にも滞在中にそういう場面に多々遭遇した。日本人の感覚からしたら、「公衆の面前でなにをしているんだ」と言われかねないと思った。しかし、初めは驚いたもののハワイアンに触れているうちに、ハワイではそういうことに関してオープンな風習があるんだと気づき、日本もハワイのようにオープンにするべきなのではないか、と思うようにまでなった。

次に日本との違いを感じたのは時間で、特にバスだ。ハワイには電車が通ってないため、公共の乗り物はバスしかないのだ。日本のバスは時刻表があり、それに基づいてバスが正確に時間通りに来る。しかし、ハワイのバスは時刻表もなければいつ来るかも分からない。バスに乗りたければただ待つしかない。通常30分待つのは普通らしい。しかもバス停にはバスのナンバーしか書いていないのでどこに行くのか分かりづらい。私は今まで時間通りに来るなんて当たり前の事だと思っていたし、一分でも遅れるとイライラしていた。しかし今回ハワイでの経験により、いかに日本が時間に正確であり、時間通りに来ることが素晴らしいのかが身に染みて分かった。

次に、ハワイではタトゥーを入れている人が非常に多いことに驚いた。大学でも町中でも周りを見渡せば必ず一人はいた。不思議に思いハワイアンに聞いてみたところ、タトゥーを入れるのは普通でありおしゃれでもあると言っていた。また、ホノルル市内でもタトゥーのお店はたくさんあり、ハワイ史の美術館でも昔のタトゥーの道具が展示されていて、これはハワイの伝統でもあり文化なのだと思った。日本ではタトゥーをしていると出入り禁止の施設も数多くある。それを考えると正反対の文化だ。

それから、ハワイのたくさんの人に触れて感じたのは皆とても親切だということだ。私のつたない英語で質問しても嫌な顔一つせずこちらが分かるように答えてくれたり、道を尋ねても丁寧に教えてくれた。また、バスではお年寄りに席を譲るのが当たり前のようにすっと席を立つ。至る所でお互いを気遣っている姿をみた。これがハワイアンスピリットなのだと思った。

チャイナタウンに訪れた時に思ったことは、ホノルル市内とは異なった空気を感じた。もちろんチャイナタウンだからというのもあるが浮浪者が多く見受けられた。さらに私たちが日本人だとわかりお金をせがまれたりもした。やはりどこの国でも経済格差はあるのだと実感させられた瞬間だった。ホノルルの観光地の素晴らしい面しか見ていなかったので、チャイナタウンでの経験はある意味よい経験だった。

そして、日本から海外にでてみて自分自身が変わったと思う事は、まず英語を話す事に抵抗がなくなったことだ。今までは英語を話す時に文法を気にしすぎて話す事を躊躇していたが、現地で生きた英語の会話を毎日しているうちに、たとえ文法がめちゃくちゃでも伝えたいという意思があったら話ができると実感した。文法はもちろん大切だがまず話をしてみることが大切なのだと気づいた。次に、ハワイアンタイムを経験したおかげで時間にとらわれなくなった。今までよりも心に余裕を持って時間に対して考えられるようになったのだ。それから、自分に自信がついた。異国の地で自分たちで買い物をして自炊をし、毎日バスで大学へ通い授業を受ける。この何気ない日常生活でのたくさんの初体験を経験できたからこそ今の自信に繋がったのだ。また、あまり人の目を気にしなくなった。ハワイのオープンな風習を肌で感じ、また自分に自信がついたおかげで、人は人、自分は自分なんだと思えるようになった。

最後に、この研修を通して世界に出る楽しさや英語を学ぶ意義や楽しさを実感することができた。そしてなによりもっと英語を勉強して、必ずハワイに戻って来たいと思わせてくれた3週間だった。

人間学部人間科学科　春山　佳佑

私は海外に行ったことがなかったのでこの研修で初めて海外に行きました。この研修では私が生きてきて体験したことのないようなことを毎日体験させてもらい新しい発見もさせてもらいました。まずホノルル国際空港に降りて日本とは違う嗅いだ事のない匂い、いままでに感じたことのない雰囲気、日本とは違った美しく自然あふれる景色を感じたことを覚えています。飛行機から到着ゲートに降りたら係員の指示に従いメインターミナルに向かうためにバスに乗りました。日本ではあまり見たことがない連結部分があるバスでした。バスに乗り込み少し進んだところで違和感がし、あることに気がつきました。日本では右側がハンドルで左側通行なのがハワイでは左側がハンドルで右側通行でした。それはたくさん異文化を感じるうちの一番最初のことでした。メインターミナルに着き入国審査と税関を受けました。日本の空港の職員はスーツを着た人がほとんどですがハワイではアロハシャツを着た職員がほとんどで文化の違いを感じました。ハワイに降りて最初に向かった場所は日立のCMで有名なモンキーポッド（ねむの木）があるモアナルアガーデンという公園でした。日本にも大きな木はありますが形や数の多さに圧倒されました。そこに向かう途中の街中や家の敷地に生えているフルーツなどの大きな木を観て自然あふれる南国の国だということを再認識しました。そういった景色や気候からハワイでは一年を通して夏しか季節がないという印象がありました。しかしそれは間違いでハワイには夏と冬という二つの季節があることを知りました。私たちが行ったときは冬の季節でしたが日本の冬とはかけ離れているものでした。冬とは言っても一年を通してあまり気温の変化はないようなので太陽が出ている時は暑く、夏を感じました。日本の夏とは違いじめじめした暑さではなくからっとしていてまとわりつくような暑さはなく、日影にいれば心地の良い風が吹いているのでとても過ごしやすいと感じました。ときどき降る雨のあとには虹が見ることができました。日本のより大きく見えるのでそれも楽しみの一つになっていました。楽しみといえば週２回あったインターチェンジでハワイ大学の学生と交流することでした。普段の授業では授業を行う教室に入ったら友達との会話やディスカッションもすべて英語で行ってくださいと担任の先生に言われていました。この研修に参加する目的のうちに英語の力を向上させることはもちろんですが、自分が今まで勉強したことを力試ししたいと思っていました。しかし初めの頃は英語がうまく話せなかったり、日本人同士ということもあり恥ずかしさがありました。毎日必死に授業を受けているうちにすぐにそのようなことは気にならなくなり研修に参加する前よりも強く、もっと英語でコミュニケーションが取りたいと思うようになっていました。このことからインターチェンジが楽しみになりより多く友達を作りいろんな人と話したくさんのことを吸収したいと思うようになりました。研修中にできた友達は多いとは言えませんが濃い付き合いができたのではないかと思っています。授業後に一緒にバスケットボールの試合を観に行ったりご飯を食べに行ったり思い出すとたくさんあります。また今年日本に英語の先生としてくる人と日本で会う約束もしたりもしました。ハワイでは毎日が充実していたので１日がとても早く感じました。街中で見る日本人の観光客もみんな充実した顔をしていました。こうしてハワイで日本人が快適に過ごせるのは遠い昔に日本から来た移民たちの苦労があってこそだというのを日本ハワイ文化センターで学びました。移民の人たちはハワイでは当時の日本の収入の約２０倍稼げることやフルーツがたくさん食べれるなどと聞かされていたのでみんなパラダイスだと思っていたそうです。しかし実際にハワイに来てみると仕事は重労働で住む家もわらなどで作られており思っていたパラダイスとはほど遠いものだったのです。くじけそうなときに移民の人々を支えたのが私たちの学校の教えの柱にもなっている仏教でした。ハワイにはいくつかの宗派とそのお寺がありそのうちの2つを訪れました。そこでは昔の移民の苦労や今のハワイを形造ったことに日本人が大きく関係していることを学びました。また仏教的な観点から今の自分を考えさせられたりこれからの生き方を諭されたりもしました。私は多くの人にハワイと日本の深い関係を知ってもらいたいと思いました。そして仏教の考え方を聞き自分の生き方の幅が広くなったので仏教のことをもっと学びたいと思えるようになりました。海外へ行くと行く前と行った後では何かが変わると言われているのをよく聞きますが実際に行ってみて生活している中では本当に自分が変わっているのかわかりませんでした。ハワイに行っている間にいろいろな人とたくさんのことを話したくさんのことを経験しました。ボランティア活動ではハワイに住んでいる日本人や地元の人やボランティアに参加していたほかの学校の人と話しをしました。ホノルル美術館では普段見れないような絵や彫刻などを見ました。毎日本当にたくさんの経験をしたので価値観が大きく変わりました。日本に帰ってきて自分の変わった点に気が付き始めました。行く前は私は人と話すことがあまり得意ではありませんでした。しかし日本に帰ってきて人と話すときに自分に余裕をもって話せるようになったことに気が付きました。以前まで自分の意思をはっきり伝えることができなかったのが意思表示をはっきりおこなえるようになりました。自分の意見をしっかり伝える大切さをハワイで学びました。今までに自分がしたことのないことにとても興味がわくようになりチャレンジしようとすることも増えました。ハワイにいる間は毎日違う場所に行ったり違う景色をいろんな人と見てきたのでとてもアクティブになりました。歩くことが好きになり休日は見たことのない景色を求めていろんな場所へ行くようになりました。1番変わったことは自分を見つめなおすようになったことです。自分の足りないところを磨いたり自分がしたいことはなんなのか考えるようになったり自分のいいところを見付けられるようになりました。そうすると自分のことを知ることができ自信を持てるようになったり自分のことが好きになることができるようになりました。ハワイへ行って変われたおかげで今は毎日がとても充実しています。今年は海外へ行く計画をいくつかしています。この研修で得たことを次に活かし新たな発見をしたいです。

人間学部人間科学科　小島　　悠

3週間の語学研修は、長いようで短かった。今振り返るとあっという間の3週間だった。しかし、この期間で様々なことを経験させてもらい、そこから学んだことはとても多く、今でも私の心に残っている。

ハワイの人々は非常におおらかで、とてもあたたかく、やさしかった。たとえば、買い物をする時である。ハワイのお金は、日本と数字が異なっていて難しかった。お金の使い方が慣れる、ということに1番時間がかかったと思う。コインは、1セント、5セント、10セント、25セントなのだが、それぞれの大きさの違いが微妙で私は一目でこのコインが何セントかわからなかったので、いちいちコインを出すのに非常に時間がかかってしまった。その時に、ほとんどの店員がお金を出すのを手伝ってくれた。わたしがお金を出すのに戸惑って時間がかかってイライラしていたのかもしれないし、観光客が多いハワイだから、店員にとってはなんてことないことかもしれないが、手伝ってくれてとても助かったしとてもうれしかった。私のバイト先の飲食店でも外国人のお客さんが来ることがある。日本語のメニューしかないので、日本語がわからない外国の人にとっては注文もできない。そいう人がお店に来た時、私は今まで相手から声をかけられるまで待っていたのだが、今回ハワイの人の優しさに触れて、今度からは自分から進んで声をかけよう、と思った。また、身近に困っている人がいたら、それがどんなに些細なことでも、一言声をかけることができる人間になりたいと思った。

また、ハワイの人はおおらかだ、と思うこともあった。それは、バスの待ち時間である。ハワイには電車がなく、ハワイの人も自家用車やバスを利用している。私たちも学校やショッピングセンターへ買い物に行くために、ほぼ毎日バスを利用した。そこで、驚いたことがある。それは、バス停に時刻表がなかったことである。日本なら、大体のバス停には時刻表がある。しかし、ハワイのバス停には時刻表は見当たらず、バスが何時に来るのかわからなかった。それでもハワイの人たちはバス停でバスを待ち続けていたのである。日本ではありえないな、と感じた。ハワイ大学へ行く時に、私たちはバスを利用した。学校が8時30分から始まるため、朝7時集合という、私にとってとても早い時間に起きる必要があった。それでも、バスは思った時間に来ない時もあった。最初はバスをこんなに長く待つなんて、すごく驚いたし、少しイライラしてしまった。しかし、だんだんと慣れてきて、最終的には「まっ、いいか」と気持ちに余裕が出てきた。日本のバスや電車は一分も遅れない。日本との違いにとても驚いた。

また、バスの中では、優先席がとても大切にされていた。若い人たちは、どんなにバスが混んでいても、目の前の優先席が空いていても、そこに座ることはなかった。ちかくにいるお年寄りや小さい子ども、けがをしている人などに席を譲る、という場面を数え切れないほど目撃した。私は、人に席を譲るということに慣れていなく、また知らない人に声をかけることにかなりの勇気が必要だった。しかし、ハワイの人は席を譲ることになれているのか、当たり前のように声をかけていた。また、近くにいなくても、優先席を必要とする人には、その人の近くまで歩いて行って声をかけている人の姿を見ることも多々あった。今まで、日本にいるときは、席を譲るのが面倒臭い、という理由であまり席に座らないようにしていたし、勇気が出ず他人に席を譲る、ということができずにいた。しかし、ハワイの人が当たり前のように席を譲っているのを見て思ったことがあった。人に席を譲るなどといった、人に親切にすることが当たり前に素直にできる人間になりたいと思った。

また、ハワイの寺院の住職の話もとても心に残っている。ハワイの人々は、自分の先祖をとても大切にしていると感じた。その理由は、ハワイの歴史を学ぶとわかった気がする。ハワイには日系人が多い。それは、昔、日本人がハワイに職を求めて移住してきたからだ。楽園だと聞いていたのに、現実はつらい労働だった。それでも、人々は耐えるしかなかった。そんなときに仏教の寺院を建てたのだという。ハワイ日本文化センターでも、このようなことを学ばせてもらった。くじけそうになったときは、頑張る、仕方がない、感謝、などといったことばを思い出していたそうだ。ハワイの人々は、自国の歴史をきちんと知っていて、先祖に感謝の気持ちを持って、また、誇りに思っているのだな、と思った。私たち日本人が無事にハワイに行けたのも、当時の方のおかげなのだと気付かされた。ハワイで学んだことは英語だけではない。この学んだことをこれからの人生で生かしていきたい。

表現学部表現文化学科　小野聖名美

私はこのハワイ大学春期集中講座に参加して、様々な経験を通し多くのことを学んできました。まずハワイに到着して感じたことは気候の違いです。寒い日本からやってきた私たちはその暖かさにとても幸せな気持ちになりました。暑いのに、空気がからっといていてとても過ごしやすい気候だと思いました。日本の夏とは大違いです。まさに寒い日本を飛び出して、常夏の国ハワイへやってきたのだなということを、身をもって実感しました。

次に食文化について書きたいと思います。レストランなどに行けば、どこへ行ってもボリューム満天で、おいしいものが食べられるハワイですが、私がこの3週間の中で最も印象に残った食べ物はポイです。私にとってまさしくエスニックフードでした。これはタロイモを練って作ったもので、ポリネシアンの人たちが主食として食べる伝統的な食べ物です。ポリネシアンの人たちは赤ちゃんの頃から食べているそうで、具合が悪くなったらポイを食べると良くなる、と言われるほど身体にいいものだそうです。正直、味の感想はおいしいとは言えませんでしたが、ハワイの伝統的な食文化を知れるとてもいい経験だったと思います。

食べ物以外にも、３週間のハワイ生活でたくさんの文化に触れることができました。１番驚いたのは交通のことです。私たちは大学へ行くのにもどこへ行くのにもバスを利用していました。そのバスは時刻表通りに来ないことがほとんどです。日本では考えられないことだと思いました。しかし、現地の人たちはそれに対して誰も怒ることもなく普通に乗って行きます。もちろんバスの運転手さんも謝る素振りも見せません。ハワイタイムなんて言葉を聞いたことがありますが、まさにこのことだと思いました。時間通りに来るか来ないかなんて誰も気にしていませんでした。また、ハワイではスケートボードに乗っている人を多く見かけました。みんな、日本でいう自転車のように当たり前の交通手段としてスケートボードを使っていました。大学のカフェテリアにもスケートボードを置いておけるロッカーがあり、これもまた日本にはない文化だなと思いました。

また、バレンタインデイをハワイで過ごせたことは、とても貴重な体験だったと思います。日本でも祝われるようになってきたバレンタインですが、日本のものとはまた少しちがった雰囲気でした。日本では女の人から男の人へチョコレートをプレゼントするのがポピュラーですが、ハワイはその逆で、男の人から女の人へプレゼントを贈ります。また、そのプレゼントもチョコレートだけではなく、バラやハート型のバールーン、テディベアなど様々です。服装もピンク色や赤色の洋服を着るそうで、大学内ではピンク色や赤色の格好をした人をたくさん見かけることができました。また、大学内の広場ではDJがいて音楽が流れていたり、ダンスをしていたりととても賑やかでした。そして私が最も驚いたのは、大学内のあちこちでコンドームを売っていたことです。大学のイベントで行われていたバレンタインのパーティーでは、コンドームが配られていました。日本ではこのように性教育に関して公にすることがないので驚きましたが、日本とアメリカでの性教育に対する考え方の大きな違いを感じることができました。

また、私はこの講座に参加するまでハワイへの移民の歴史についてあまりよく知りませんでした。しかし日本文化センターで移民の歴史について学び、お話を聞いて、ハワイをとても身近なものに感じました。日本とハワイがこんなにも深く歴史で結ばれているとは知りませんでした。どうして多くの日本人がハワイへ移民したのか、戦争のこと、労働や生活での苦労など、日本人として知らなかったことが多く恥ずかしく思いました。この機会を通して学ぶことができて本当によかったと思います。

私にとってこの研修の３週間はあっという間でしたが、とても貴重な経験となりました。美しいたくさんの自然に囲まれ、現地の人とふれあうことができ、また一緒に研修を受けた仲間ともより良い関係を築くことができました。今回のこの研修で学んだこと、たくさんの経験は今後の私にとって大きな糧になると思います。

人間学部臨床心理学科　小林 真依子

私は今まで海外に行ったことがなく、今回のハワイ大学春期集中講座に参加することによって、初めて日本を離れた。日本から海外に出て最初に感じたことは、天井が日本に比べて高いということであった。それから、フードコートに行ったときには、料理の量が多いということも感じた。

また、屋外では、大きな木がたくさん生えていた。日本で有名な日立のコマーシャルに出てくるモンキーポットという種類の木は、至るところに生えていて、小さな驚きであった。ハワイの季節は冬であったが、常夏の島というだけあり、緑が多く、また、ブーゲンビリア、ハイビスカスといった種類の花がたくさん咲いていた。ハワイは日本と比べて乾燥しているので、暑いのではあるが、汗はあまりかかずに快適に過ごすことができた。Tシャツ一枚で過ごすのがちょうどいい感じではあったが、室内などでは冷房が効いていて、意外と肌寒く感じることも多く、薄手の上着は重宝した。民家の庭には、さまざまな木が植えられていたが、マンゴーの木や、バナナの木、ライチの木など、果実が生る木が人気なようで、多く見受けられた。交通の面だと、ハワイでは、日本に比べて、自動車の免許を取得できる年齢は低く、１５歳からであり、また、費用も安いので、多くの人が若いうちから自動車を所有し、運転しているとのことであった。自動車以外での交通手段には、市バスの利用や、トロリーバスの利用が挙げられる。市バスは、観光客や、地元の人々がよく利用しているようであった。また、トロリーバスは、観光客が主に利用しているようであった。

ハワイでは、色々な場所にABCストアというコンビニのようなお店があり、そこには様々な食料や、そのほかにもTシャツやアロハシャツ、ビーチサンダルといった服や、キーホルダーやマカダミアナッツなどといったお土産になるものまで、さまざまなものが売られていて、とても便利であった。また、日本にあるセブンイレブンや、ローソンなどのコンビニは、ハワイにもあった。ハワイでは、日本食のお店も結構あり、回転ずしのお店は何回か見かけた。また、ハワイにある丸亀製麺というお店では、毎日すごい行列ができていて、すごく人気のようであった。コンビニでは、スパムむすびという、おにぎりをスパムではさんであるものが売られていて、それがすごくおいしいのだと、インターチェンジの際に教えてもらった。日本の食べ物であるおにぎりが少しアレンジされてハワイの文化として溶け込んでいるのだなと感じた。また、食べ物で感じた違いだが、フードコートで売られていたクッキーの味や食感が日本のものと違い、甘く、もっさりしていた。また、大きさも違い、量が多かったので、美味しかったが、日本のクッキーに慣れていた私は食べるのに一苦労した。同じ料理でも、やはり日本のものとハワイのものとでは違うのだなと実感した。ハワイでは、フルーツを食べる機会が多かったが、新鮮で甘くてとても美味しかった。また、ハワイのマクドナルドのハンバーガーを食べたが、日本のハンバーガーと同じような味がして、とても美味しかった。ハワイには、アラモアナセンターやロイヤルハワイアンセンター、ファーマーズマーケットなど、さまざまな買い物ができる場所が多くあり、楽しみながら買い物をすることができる。特に、ウォルマートやドン・キホーテでは、食料品から衣類、日用品、雑貨、お土産など多種多様なものを安い値段で買うことができた。

ハワイ大学の授業では、幅広くいろいろなことを学んだ。語学の勉強はもちろんのこと、ハワイの文化や歴史のことまで知ることができた。そのなかで、特に印象的だったことの一つにタロが挙げられる。ハワイの伝統的な食べ物であるタロは、宗教的な一面もあり、神聖視されていたそうだ。根の部分は加工され、ポイとして食べられる。私も授業で食べさせてもらったが、最初の一口しか食べられなかった。独特な味なので、そのままでは食べられない人は多いらしく、砂糖を混ぜて、お菓子にするという料理をしたり、副菜としてたべたりするのが一般的らしい。フラの授業もまた印象的であった。フラの授業では実際にフラを踊ったのだが、それまで全く経験のなかった私でも楽しんで踊ることができた。

大学のない休日には、様々な場所へ行った。ダイアモンドヘッドに登った時は、風が吹いていて、大変だったが、頂上からの眺めは絶景であった。ハワイに住んでいる人のなかには、毎日ダイアモンドヘッドを走って登ることによってエクササイズしている人もいるらしく、驚きであった。パールハーバーでは、アリゾナ記念館で戦艦アリゾナ号や戦没者の記念碑を見学できた。私が行ったときには、記念碑のところで演奏していて、その音色はとても感動的でした。ビショップミュージアムでは、古代から王朝時代のハワイの文化と歴史を詳しく学ぶことができた。当時の様々な物品が展示されていて、近くで見ることができ、当時の生活などを知ることができた。ホノルル美術館では、現代アーティストの作品を鑑賞することができた。日本文化センターでは、ハワイ日系移民の人々について深く知ることができた。移民たちは、サトウキビ畑やパイナップル畑での過酷な労働に耐え、日本の価値観と習慣を守り続け、希望を持ち続けた人々であること。１９４１年の日本軍による真珠湾奇襲攻撃により日系移民たちが受けた苦難や一世代から四世代にまでわたる時代や生活の変化の歴史を学んだ。建物の入り口付近にある石には、日系移民の人々の心の支えとなった価値観の言葉が彫ってあり、それはとても印象的であった。

私は、ハワイ大学春期集中講座に参加して、日本ではできないとても多くの経験をすることができた。この経験は、以前よりもいろいろな視点から物事を見ることができるよう私を成長させてくれた。かけがえのない大切なものだ。私はこの講座に参加できて心の底から良かったと思う。最後にお世話になった先生方、この講座に参加した大正大学のみんなには一言で言い表せない感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

人間学部人間科学科　千葉　章雄

大学生になり一度日本を離れて海外で生活してみたいと考えていた私は、今回の海外語学研修に参加した。今まで海外に行ったことのなかった私にとって、何もかもが初めての体験で学ぶものがたくさんあった研修となった。また、一年生のころから英会話を習っていたのでそれを発揮できる絶好のチャンスでもあった。

いざハワイに降り立ってみると自分がまだ勉強不足だったことを思い知らされる。現地の方々が話す英語は自分が想像していたよりもスピーディーで、一回でなかなか聞き取ることができなかった。特にインターチェンジで出会った学生がしゃべる英語は本当に早く、何度も聞き返してしまった。しかし相手が何を質問しているのかを聞くことができた時、どこかで聞いたことのあるフレーズ、すでに知っている言い回しだったということが多かった。それは単に私の耳がまだネイティブの発音に慣れていなかったということなのだが、勉強した結果があまり実感できなかったのは悔しい。コミュニケーションを取るうえで重要な要素のひとつであるリスニング力に苦手意識を感じている人は多いと思う。私もその一人だが、ネイティブは単語一つ一つを区切らず、繋げるように話すので知っている単語もまるで違うものに聞こえてしまう時がある。そして、スピードが速くて不明瞭なのだ。これが聞き取ることができない大きな要因となっている。リスニングの練習教材CDのような丁寧な発音と違って、実際はかなり大雑把な発音になる。日本人の日本語でも雑な発音で話されているのと同様に、英語でも同じことが言える。やはり発音は発音記号で覚えるではなく、耳で覚えなければならない。英語特有のリズムを感じ取れるようになるまで繰り返し練習が必要だと感じた。

またこのようなことはスピーキングにも関わってくる。授業で、UHの学生に簡単なインタビューをするという内容があり、発音を意識しながら話したのだがうまく通じることができず、2回ほど繰り返して言うとようやく伝わった。会話でいくら正しい文法を使っていても、同時に正しい発音・イントネーションで話さなければ相手に伝わるはずがない。特に「ｔｈ」や「ｒ」と「ｌ」の発音の区別は非常に難しいが、英語を話すならば身に付けなければならない。英語の学習において一番取得が困難なのがスピーキングと言われている。「読む」「聴く」「書く」はものにすることが可能だが、「話す」という行為は相手があって初めて成立するので、独習での習得が難しいのは当然だ。だが、易しい表現ならインプットの勉強を続けていれば簡単な会話ならこなせるくらいの力が身に付くと思う。私はその簡単な会話すらも危うかったのだが、相手に失礼にならないように単語だけでも言うように意識した。そして相槌を打つのと同時にジェスチャーを付けて言いたいことを伝えるようにした。そうすると相手側も何を言いたいのかを察してくれたので、会話を続けることができた。また、何か意見を求められて自分の考えをまとめている間に何もしゃべらないと、結局何も言えないまま終わってしまうことがある。このような場合、まずは自分に話す医師があるということをアピールする必要がある。途中で単語が解らなくなっても、なるべく沈黙を作らないコミュニケーションをとることが大切だと感じた。

会話と言えば英語圏に滞在していたにもかかわらず、時折気になったのがハワイでは日本語がよく聞こえてくるということだ。白人や黒人がもちろん大多数なのだが、ハワイはアジア人にとってもメジャーな観光都市であるためか日本人や中国人も多い。そのためホテルの従業員やショップ店員は、日本をはじめ様々な国の言語を短文ではあるが話すことができる。ショッピング―モールへ行った時も日本語で客引きされたので、日本人を相手に接客することは日常茶飯事になっているのだと思う。また、日系人の方も多いのでその影響もあるのかもしれない。ハワイ大学でも両親が日本人、または片親が日本人という学生が少なくなかったので、ハワイに滞在する日本人がいかに多いかがわかる。インターチェンジの学生は日本人との繋がりがある人が大半だったので、英語と日本語の両方を話すことができる人が多かった。戦前から労働者を確保するために移民を進めてきて、多い時でサトウキビ畑の労働者の70%が日本人移民で占められていた時期もあったそうなので、至る所で日本人を見かけるのは当然だろう。

ハワイでの語学研修は私にとって貴重な体験になった。国際交流を図る上で欠かせないものとなる外国語はこれから益々必要になってくるだろう。特に英語は世界共通語にしようとする動きもあるため、誰もが身につけておくべき言語になるかもしれない。語学研修で学んだこと、今後克服すべき課題を忘れずに、さらに語学の勉強に励んでいこうと思う。

表現学部表現文化学科　成田康一郎

私には将来、海外で映像関係の仕事に携わるという夢があります。その為、映像について多角的に学ぶ事の出来る大正大学に入学をしました。入学してすぐハワイ大学春期集中講座のチラシを見て、自分の将来の夢の為にも海外で英語や外国の文化などについて学ぶことは絶対に必要になると考えて、参加を決意しました。出発前は自分の英語力に不安もありましたが、新しい環境で、今までに出会ったことのない人たちと学ぶことの出来ることに対しての楽しみの方が大きかったです。

ハワイに到着して、私がまず思ったことはとにかく暑い！ということでした。日本では現在でもとても寒い日が続いていますが、ハワイの、今の季節が冬ということを忘れさせる程の強い日差しには、いくら事前にハワイは1年を通じてとても暖かいと聞かされていても、驚きました。初日のお昼はショッピングモールのフードコートでファストフードを食べたのですが、そこで文化の違いを感じました。私はハンバーガーのセットを食べたのですが、ハンバーガー、フライドポテト、飲み物の容器、すべてが日本のもの比べて二倍ほど大きかったのです。アメリカの人々の大きな体はこのようなものからできているのだなと実感しました。

到着二日目は、ウクレレピクニックオブハワイというフェスティバルにボランティアとして参加をしました。そこで私たちはインフォメーションブースでTシャツを売りました。

そこで、私たちは改めて通貨の違いを体験しました。中でも、コインの単位を覚えるのが難しく、これは三週間を通じて最後まで私を悩ませました。

三日目からは、いよいよハワイ大学で授業が始まりました。The busの13番に乗って30分ほどすると、ハワイ大学の一角が見えてきます。ハワイ大学はまるで一つの街のように広く、信じられないほど大きいです。その中のキャンパスセンターという所で私たちは授業を受けました。一度教室に私たちの使える言語は英語だけになります。最初は自分の考えを述べる時や、疑問を先生に質問する際、友達との雑談さえ英語を使うことに苦労しました。授業は午前中に終わり、昼食は大学でとることになります。

ハワイ大学には、様々な種類のレストランやファストフードがあります。私はほとんどの昼食をキャンパスセンターのカフェテリアやパラダイスパルムカフェでとりました。比較的で安価に食べることができますが、先に述べたように食べ物や飲み物は体の大きい外国人向けに作られているので、注文する際は注意が必要です。

大学にはハワイからはもちろんのこと、様々な国から多くの学生が来ています。周りから常に英語か聞こえてくる環境は私にとってとても刺激的な環境でした。中でも、授業内で行われるインターチェンジは私にとって一番好きなユニットでした。インターチェンジとはハワイ大学の学生と約50分間、特定のトピックについて英語で質問しあったり、議論をしたりするもので、週に二回行われます。私はこのインターチェンジで知り合った学生と授業とは別に、ハワイ大学のバスケットボールチームの試合を見に行ったり、一緒に食事をしたりしました。インターチェンジを通じて多くの貴重な体験をすることができました。

私がこの三週間の中でも最も印象的だったことは、ハワイ日本文化センターにて、ハワイにおける日系人の歴史を学んだことでした。恥ずかしいことに私は日系の移民の方々の歴史をほとんど知りませんでした。そんな私にとって貴重な資料を見たり、お話を聞けたことは本当に良い経験になりました。ハワイを夢の楽園と思って、日系一世の方々を待っていたものはサトウキビ畑と厳しい労働と差別でした。そのような苦難にも決して諦めることもなかった彼らがいたからこそ、私たち日本人が観光地として、気軽にハワイを訪れることが出来るのだと実感しました。

今回の研修を通じて、私は様々なことを学び、身につけることが出来たと思います。

自分の考えを積極的に発言する力、また行動力がつきました。ハワイに行く前の私はどちらかというと、消極的な人間でした。しかし、ハワイでは自分の考えを求められる場面が多くあり、最初は苦労しましたが、最後にはクラスを代表してスピーチをする役目を務めるほど、積極的になることができました。またハワイとはいえ、日本との違いはたくさんあり、わからないこともたくさんありました。そのような環境では、分からないことは人に聞くしかありません。あらゆる場面で積極性と行動力の求められた三週間だったように思います。今回得たものを決して忘れず、磨きをかけてより積極性と行動力になりたいと思います。

人間学部臨床心理学科　大庭　彩花

私にとって今回の研修が初めての渡米だった。アメリカと日本の文化の違いはこれまでにある程度勉強してきたが、実際に体感したことがいくつかあった。まず1つ目は食事の違い。どこで何を頼んでも量がものすごく多く、高カロリーなものばかり。私はわりかしよく食べる方だが毎日毎食あのような食事をとっているアメリカ人には到底かなわないと思った。また、現地の大学生からこのようなことを聞いた。たとえば2人以上でどこかレストランに入った時に、自分の頼んだものが1番最初に運ばれてきたとする。日本人なら全員の食事が揃うまで待ち、揃ったらみんなで「いただきます」と言ってから食べ始めるが、アメリカ人は待たずに運ばれてきたらすぐ食べ始めるというのだ。他の現地の人たちにも聞いてみたが、海外には「いただきます」と「ごちそうさまでした」の文化は存在しないらしく、日本特有の文化であることがわかった。そのような些細なことからも日本との違いを知ることができて嬉しく思った。

2つ目は学生生活の違い。日本とアメリカの大学生はびっくりするほど違いがあった。バスケットボールの試合やバレンタインなどのイベントでは盛大に盛り上げるし、何をするにもオープンだった。最も興味深かったのは、あちらの学生は個人で行動している人の方が多いということだ。これには文化の違いが大きく影響していると思った。大昔からアメリカ人は狩りをして自らの手で生き延びていかなければならない国だった。そのことが今のアメリカの個人行動をする文化につながっているのではないかと考えた。一方で、日本人は稲作を始めたころから今に至るまでずっと協調性を大切にしてきた。それを背景に考えると、日本の学生は、食堂に行くにしても授業を受けるにしても集団で行動する傾向にあることは納得いく。

海外に出てみて、自分の中で考え方が変わった。1番に思ったのは積極性をもっと大切にしようということだ。日本とは違い、海外ではまず自分から行動を起こさないと何も始まらない。逆に言えば、何でもいいから自ら行動を起こしさえすれば、何かを学ぶことができるのだ。私はハワイにいたとき何度も道に迷った。そういう時は自分で悩むより人に聞いた方がはやいと思い、勇気を出して現地の人に道を聞いていた。ハワイの人はとても親切で、皆いやな顔ひとつ見せず目的地を教えてくれた。異国の地で不安を感じた時にこそ、積極的に行動することでいい結果を得ることができるということに気づいた。このことは海外だけではなく日本でも同じだと思うので、積極性を大事にして生きていこうと実感した。

研修の序盤から、ハワイの人は日本人にとてもよくしてくれるなと思っていた。日本文化センターに行ったときに、それには日系移民の歴史が大きく関わっていることを知った。彼らの血の滲むような努力のおかげで今の親日的なハワイが出来上がっているのだ。今日、日本人はみんなハワイに行きたがるし、実際に観光目的で行く人はとても多い。しかしなぜ観光地では日本語が通じるのか、なぜハワイはあんなにも親日的なのか、そのようなことに疑問を持ち実際に調べようと行動に移す日本人は一体どれほどいるのだろうか。ハワイの観光客は、もっと移民の歴史を知り、学ぶべきだと思う。その方が普通に観光するよりも数倍楽しいし、新たな発見もするかもしれない。ハワイは楽園とよく言われているが、日本でその理由や意味を考える機会をもう少し作るべきだと改めて実感した。

研修を通して1番思ったのは、アメリカ本土に行ったらより文化の違いを体感することができるのではないか、ということだ。次に海外に行く機会があったら今度はアメリカ本土に行って、もっともっとアメリカの歴史や文化を学びたい。本格的に日本語は通じないだろうし食事も口に合わないかもしれないけれど、チャレンジすることが何より大切だと心から思った。今回の研修でこのようなチャレンジ精神が培われ、自分に自信を持つことができた。とても刺激的な経験ができて大満足だ。

文学部人文学科　　釣巻　詩月

今回、大正大学の春期集中講座である短期留学プログラムに参加して得た学びは私にとって非常に大きなものである。日本国内にとどまっていただけではわからない、ハワイの様々な貴重な体験を三週間という短期間の中で数多く経験した。印象的な事象を上げその体験について詳しく述べていきたい。

まず、海外に行くことが初めてになる私にとってハワイという地は何もかもが新鮮であった。こんなにも様々な人種が行き交う街を知らなかった私は驚きと楽しさを覚えた。日本にいると日本人が国内のほとんどを占めている。だが、ハワイは違っていた。日系の方や、白人、黒人、黄色人種といった多種多様な人種の人々がそこにはいた。それは今まで日本しか知らなかった私にとってとても刺激的なことで、この刺激こそ私の英語の勉強に対する意欲に繋がる最初の一歩となったのである。

今回英語を学ぶこととなった場所、University of Hawaiiもまた、外国の方を身近に感じられる素晴らしい場所となった。ＵＨに通っている学生は自分と同じ年代の人から、年配の方まで様々で幅広い年代の人が多く集まっている。その大学で一緒に学べたことには私にとって非常に大きい出来事であった。そして、その中で見えてくる少しの文化の違いも興味をひいた。まず、男性も女性も人のことを思いやる精神が多様な場面で多く見られた。例えば、ひとつのドアがあったら自分が次の人が通るまでドアを開けて待っていてくれるのだ。実際にあるとは聞いていたが、自分がされた時、海外に来たと感じると同時に感動した。日本ではこんな光景は見られることは滅多にないことである。こうした小さな思いやりから自分自身も、日本も見習っていくべきではないのかとそのとき感じた。そして、次に感動し見習うべき点であると感じたこと、それは『your welcome』と言う精神である。これは知ってのとおり、どういたしましてということだが、日本ではこの言葉を言う精神が少し欠けているのではないかと今回、留学をしてみて気付いた。ハワイでは誰かが『Thank you』と言うと必ず、『Your welcome』という言葉で返してくれる。これは本当に素晴らしいことだと改めて感じることができた。日本にも『どういたしまして』という言葉があるのになぜ使わなくなってしまったのであろうかという疑問が私の中で生まれた。だから私は積極的にこの言葉を使っていきたい。言われた方も気持ちがいいし、言っている側も気持ちよくなる。この精神を忘れず続けていきたいと強く思うことができた。

次に文化について触れていきたい。ハワイには多くの文化がありその中でも有名な文化、フラダンスについてだ。愛媛丸のボランティアやＵＨの授業内でも教わる機会がありハワイらしい文化を多く体験することができてとても貴重な体験ができた。先祖から代々続くフラダンスを教えているクム・イケさんに教わりみんなで体験してみた。クム・イケさんのフラダンスは迫力があり、見るものを圧倒させ、惹きつける不思議力があった。フラダンスを踊る際に使う珍しい楽器たちもより踊りを際立たせ本当に感動するフラダンスであった。実際自分も踊ってみたが、あの滑らかな動きを出すことは思っていたよりも難しく苦戦した。そして、フラダンスの動きには意味があることを彼女は教えてくれた。私はただ決められた動きに合わせて踊っているだけかと思っていたがそれは大きな間違いであった。その動きは海の波を表すものであったり、綺麗に泳いでいる魚を表現するものであったり。神を求めるものであったりなどとハワイの歴史がひとつのフラダンスに詰まっていることがわかった。だからクム・イケさんの踊りは素晴らしいのだともわかったのだ。それは先祖代々から伝わるフラダンスだからこそハワイの昔からの歴史がわかりその歴史をフラダンスに取り込むことができ、人々を感動させることができるのだろう。ハワイならではの素晴らしい体験ができて私の人生がまたひとつ豊かになったと感じた。

次に印象的だった場所は「ハワイ日本文化センター」である。ハワイといえば日系移民が多いことでも知られているが、ハワイ日本文化センターでそのことは十分に学ぶことができた。日系移民のことは聞いたことはあっても深く内容まで知らなかったがそこではたくさんのことを学ぶことができた。ハワイは日本の観光地としても有名で海の綺麗な穏やかな所としてみんなから愛されている国ではあるが、その裏の過去は重く、深い傷を負っていることがわかったのである。日系人の先祖は奴隷同然に扱われていたという衝撃の事実や昔のことを知る人のノンフィクションムービーを見て先祖がどれだけ大変な苦労をしているのかがわかったと同時に先祖のおかげで今のハワイがあることがわかった。ここではハワイの大切な歴史を学ぶことができて自分のハワイの見方も変わり新しい考え方ができた。今のハワイと過去のハワイ、どちらも大切にしていくべきだと強く思えた。

また、有名な観光地としてはずせないのがハワイの海である。ここも日本とはまるで別世界であった。今までに見たことのない綺麗な海が少し足を伸ばせば広がり、本当に深く感動したことを覚えている。それはまさに、ハワイの宝といってもいいであろう。日本にも綺麗の海は存在するしそれもまた素晴らしいものであるが、ハワイの海は日本とはまた違っていた。やはりその土地によりそれぞれの特徴がありハワイの海も例外ではないのである。綺麗で穏やかな波のある海は見ているだけで心が穏やかになるのだ。このような経験は初めてだった。ハワイという土地が人々から愛される理由のひとつとしてこの海があるのであろうと考えられる。

私は今回、このハワイの短期留学に参加できて心からよかったと思えることができる。留学に一緒に参加した大正大学の友達もでき、海外でも初めての友達もできた。友達とはかけがえのないものだと再確認できたし、なりよりこの実の詰まった三週間は私の中で一生消えることのない素晴らしい思い出としてずっと刻まれ続けるだろう。楽しくてずっと笑っていたときがあれば時に真剣にハワイの歴史や文化を学ぶこともあった。日本に帰ってきた時、私の中で確実に何かが変わっている感じがしたのだ。この留学をきっかけに海外にすごく興味も出てきた。この経験を活かしてまたいつか世界に飛び立ち、自分の英語の力や様々な文化の違いを見てもうひとまわり自分を変えていきより成長していきたい。また、普段の日本の生活に戻った今でも英語を常に意識していき、この留学という経験を無駄にしないように心がけていきたい。今回の短期留学での出来事は本当に一生に刻まれる素晴らしいものとなった。これを思いでを糧にこれからも様々のことに挑戦していきたい。

人間学部人間科学科　田村　涼子

今回、私はハワイ大学春期集中講座に参加をしました。大正大学では、海外へ短期留学をすることのできる研修プログラムがあります。大学の春休みは長く、部活やアルバイト三昧、旅行に出かける人など、何をするのかは人それぞれだと思います。この期間をどのように過ごしていこうかと考えた時に、海外へ行ってみたいという案が浮かびあがりました。

今までに一度も海外へ行った経験がなく、いつかは日本以外の国へも行きたいと思っていました。そんなときに、今回の短期留学の話が舞い込んできたのです。しかし、話を聞こうと担当者のもとへ足を運びましたが、結局、申し込みはしませんでした。そのうちに定員が達したとのことで募集が締め切られてしまいました。行きたい気持ちはありましたが、その気持ちよりも自分の英語力への自信の無さが強く、あと一歩がこの時は出すことができませんでした。参加をしないと決めた後も、自分の中で煮え切らない感情が残っていました。しばらくして、あと定員を２名募集するという話が耳に入ってきました。この話を聞いたときに、まだ参加できるかもしれないと一気に気持ちが高ぶるのを感じました。申し込み用紙を前にしたときは、やはり不安もありましたが、この機会を逃したくないという気持ちの方が強かったです。参加が決まった時は、すっと気持ちが軽くなったのを覚えています。出発日までの準備を進めて、ようやく念願だった海外へと旅立ちました。私を含めた29人の学生が参加し、初めての海外という人にとっては頼れる人がいることはとても心強かったです。

今回の短期留学では、多くのことを学びました。ハワイには本当に多くの日本人が観光へ来ており、またそこで暮らしている人にも会うことができました。日本にもあるお店や、文化が所々で見られ親近感が湧きました。古くから日本とハワイは関係が深く、モール先生による宗教の授業やハワイ日本文化センターを訪れたことで、知らなかった歴史を知ることができました。そして、目に見える現状の背景には、日本とハワイが刻んできた歴史が関係しているのだろうと思います。親しみを感じることもありましたが、やはり文化の違いに戸惑うこともありました。チップを払うことや、一番は食に関して驚くことが多かったです。日本では安価で手に入る食材がハワイでは高く、またその逆もありました。少しの滞在でしたが、衣食住に関して互いの国の長所・短所を知ることとなりました。

滞在期間中は、ほぼ毎日どこかへ出かけていました。様々なものを見てきた中で、一番印象に残っているのが人々の笑顔です。2月14日のバレンタインデーは、ハワイ大学ではいたる所に装飾が施しており、お菓子やカードを学生が販売したり、音楽を流してみんなでダンスをしたりお祝い事や行事を楽しんでいるように思えました。街のある場所では、この日限定でマーケットをしており、そこでハワイにホームステイしている日本人の方と知り合いました。一緒にいた現地の大人や子どもたちと遊び、屈託のない笑顔を見て私も心から楽しいと感じました。

今回の短期留学を通して、見たもの、学んだこと、経験したことで得られたものが多くありました。日本に帰ってきてから一緒に参加した人に、前より明るくなったねと言われました。その言葉に納得している自分もいて、ハワイに行く前と行った後では自分自身に変化がありました。楽しい、嬉しい、悲しい、寂しい、怒るという感情を以前より出せるようになったと感じます。そして話すこと、伝えることが億劫に感じなくなりました。いつもどこか消極的で、人の後ろに隠れてばかりでした。留学という、制限のある期間の中で充実した日々を過ごすには行動することが大切になります。表立って出れない原因は、自分に自信が無かったからです。それに加え、周りの目を気にし過ぎていました。1回目の募集の際も、葛藤を繰り返して断念しました。「迷っているなら参加してみた方がいい。最後には楽しかったと思えるはずだから。」と言った、担当者の方の言葉に背中を押されました。あと一歩がすごく重たくてブレーキをかけ続けてきましたが、アクセルを一度かけると、おのずと次の一歩が行きやすくなりました。海外へ行くことはその国の文化を知るだけでなく、自分を知ることもできました。今思うことは、担当者の方が言ったことは本当だったということです。楽しかったと思わせてくれたのは、両親や周りの人たちのお陰でもあります。それと、自分の行動が結果、そう思えることに繋がったと考えます。今後、この経験が活かせるかは自分次第です。ただ、後悔しない選択をしようと常に自分に言い聞かせていきたいです。

表現文化学科　　田中　朝子

ハワイで感じたこと。

　まず、伝統や自国を大切にしていること。私たちの住む日本は、便利でどんどん新しいことを始める傾向にある。特に技術の進歩が凄まじく感じられ、また高層ビルなど、東京にいるとTHE街といった感じだ。それによって私たちの住みやすさが維持、または改善されているのだろう。これからもそれが進むに違いない。だが、日本人はその急激な進歩のせいなのか、自国のことをよく知らない。どのような経過を辿って今の自分があるのか、ハワイに行って改めて知らなさを痛感することになった。まず、アメリカ本土とハワイの違いは日系が多いこと。国と国が関わることであり、日米が対立した際には考えられないほどの困難があっただろう。日本人がハワイに大量に送られたという時点でハワイの歴史は私たちの住む日本と深く密接していると考えられる。現在アメリカと日本は対立していないものの、以前、戦争などでの対立は日系人にとって、一体自分が何者なのか分からなくなっていた者もいただろうし、ハワイアンカルチャーセンターではその苦悩や立ち向かう精神などを詳しく知ることが出来た。それは完全に日本の歴史でもあり、知ることでハワイの見方も変わるものだ。ただの観光地という見方から、日本と関わりの深い、日本人も現地の人と一緒に作り上げた国なのだ、という見方にもなる。また、フラダンスやハワイ語についての授業も行われたが、ハワイ語に関してはそこら中でアロハやマハロという言葉が飛び交っていてアメリカにいながらも少し違った言葉も聞けたことが新鮮だった。基本的には英語が中心だがハワイ語や日本語も話せる人がたくさんいるのだ。ハワイというと、行くまでは観光業が盛んなために日本語を話せる人がいるのだと思っていたが、歴史が背景にあることを知り、それは新しい発見でもあった。だがそのために、英語を学ぶには少し易しすぎる国でもあるようだ。

歴史的建造物も街中に普通に建っている。日本の京都や奈良のように歴史的なものが固まって置かれる地域があるわけではないところが外国を感じさせる。以前ヨーロッパに行った際も、建造物は大切にされているのだがっちりと守られている訳ではなく、そこら中に晒されているのだ。ハワイが王国だった時代の城やカメハメハ大王の像が道路に面して建っている。

　外の環境は、まず目に入る、海、ヤシの木だ。そのイメージを壊さないためなのだろうか、お店も海の雰囲気というか、思い浮かべるハワイのままである。どこもかしこも高層ビルが立ち並ぶ訳ではなく海と自然を大切にしていることが伝わってくる。これが自国愛なのだろう。時間の流れが緩やかに感じ、日本の、電車が一分でも遅刻してパニックに陥るなどといった生活リズムは全く感じられない。バスストップには時刻表が無いし、時間をあまり気にしないことが一目瞭然である。日本人にとって初めは苛々してしまうかもしれないがそのハワイアンタイムに慣れれば時間感覚が常にリラックスに変わるだろう。

個人的には、人々は思ったよりかはフレンドリーではない。大学に通っているからと言って友達が自然に出来る訳ではないし、お店に買い物をしに行けば雑に接客をされ、笑顔はほとんど見られない。プールに行けば安全面が気になるくらい適当。その辺りは、比べると日本は気遣いの出来る国、もしくは世界的に見れば出来すぎる国なのかもしれない。相手が何を言っているのか分からなくても笑顔でうなずいてみたり、相手を傷つけないようにすることに精一杯だ。そんな自国に慣れているからなのか、相手がこちらを真顔で見つめてくるだけで何か不安を感じてしまう。どちらが正解なのかは分からないがそれが文化の違いなのだと、行ってみると余計に感じる。文化の違いは混乱を招く場合もあるが、それは国それぞれであり、考え方を互いに認め合うことで成り立つ。

ハワイは日系が多く、島でもあり、日本と似ているところが多い。食べ物も少し値段が高くは感じたが、米が多く使われているなど、口に合いやすく、アメリカンなジャンクフードばかりではない。

気候も過ごしやすくて、滞在するにはとても日本人に合った場所だと感じた。日本との違いと似ているところを知り、楽しむことが大切だ。そのために自分たちが日本のことをもっと知る努力が最初に必要になってくるだろう。

人間学部人間科学科　渡部　　結

ハワイでの３週間は自分にとってどのようなものであっただろうか。日本に帰国してから、思い出を振り返りながら自分に問いただしてみると、「充実」という二文字の言葉が浮かんだ。私は以前から大学生のうちに、できるだけ多くの海外へ行き、語学を学んだり、日本とは異なった文化に触れてみたいと考えていた。また、2か月もの長い春休みを、いかに充実させることができるだろうか、と考え、この語学研修ならきっと良い経験ができるに違いない、という期待を胸にハワイ大学の語学研修の参加を決意した。

では、ハワイでの３週間は自分にとってどのようなものであっただろうか。無事に３週間を終え帰国したとき、この研修で得たものは「自分から積極的に動くことの大切さ」を、身に染みて感じたことである。

この研修は、自分を含め同じ大学から約30名の学生が一緒に参加するものである。そのためハワイに着いてすぐに、「こんなに多くの日本人に囲まれて、果たして英語が少しでも上手くなれるのだろうか。」と不安を抱いた。さらに都市部のワイキキの方へ行くと日本人観光客も多く居り、出発する前から「ハワイは日本語が通じる」という言葉も耳にしていたが、自分が思っていた以上に英語を学ぶには大変な環境であることに気付いた。美しい海と、温暖な気候、おいしい食べ物に囲まれ、油断してしまえば長い観光になり兼ねないと危機感を感じた。そして、実際に授業が始まってみると先生の言っていることが理解できなかったり、ついていけない場面が多々あり、自分の英語能力がいかなるものか思い知らされることとなった。私はその時初めて、自分の心の中に「外国に行けば、自分も少しは英語を話せるようになるだろう。」と安易な気持ちがあったことに気付かされた。しかし実際に環境の悪さ、自分の英語能力の現実を目の当たりにし、行く前に抱いていた研修に身を委ねた期待から「このままではいけない。せっかく３週間ハワイにいるのだから、環境に負けずに自分のできることを精いっぱいやろう。」という心境へと変化していった。そして私はこの変化を機に、限られた3週間という短い時間、日本人の多い環境の中で、どのようにして英語を上達させていけばよいか、考えるようになった。友達と話す時も英語を話すように努め、部屋では覚えた単語を紙に書き貼ったりするなど、環境に負けないよう自ら工夫して３週間過ごすよう心がけた。授業中も分からない単語があればその都度調べ、それでも分からないことは友達や先生に質問するなどした。初めのうちは試行錯誤であったが、だんだん慣れてくるとルームメイト、クラスメイトとも簡単なコミュニケーションであれば英語も自然と使えるようになっていった。また、その中で、熱心に英語を学ぼうとしている仲間の姿を見て、自分も見習わなくてはならないな、と刺激を受けさせられる場面もあり、集団で研修を受けることで、感化させられる良い面もあったと感じた。

ハワイでの一日のスケジュールは、午前中に大学で授業を受け、午後は各々でしたいことを決めて自由に行動して良い、というものであった為、ただ買い物に出かけるだけではなく、インターチェンジで交流した学生においしいご飯のお店を教えてもらい、そこへ出かけて行ったり、大学内を探検したり、部活を見学しに行くなどして過ごした。人によっては大学の中で仲良くなったハワイ大学の学生と遊びに行く人も見られた。その中で、私は、何人か研修メンバーでハワイ大学の茶道部を訪問した。

そこでは、ハワイ大学の茶道部の学生にお茶を点ててもらい、ハワイで日本の文化に触れるという貴重な体験をすることができた。ハワイ大学の茶室は、ハワイにいることを忘れてしまうほど日本を感じさせられる風情があり、とても趣深いと感じた。「日本の文化を学ぶ」といったハワイに居ながら日本の文化を感じることのできた場面はこれだけではなく、大正大学語学研修の皆で訪問した、浄土宗と天台宗の別院でも貴重な体験ができたと感じている。特に天台宗で聞いた六道輪廻の話は今でも印象に残っている。このような体験は、この研修でしか経験することのできないものであったと思うので、良いプログラムであったと思う。他にも、この研修で良かったと感じたものは、個人での研修や短期留学ではなかなかできない、ハワイの文化について学ぶフラダンスの授業、ハワイの歴史を学ぶ授業、伝統的な食べ物を体験したりするカリキュラムが組まれていたことや、ハワイ日本文化センターでの日系移民の歴史について学ぶ機会があったこと、ホノルル美術館やビショップミュージアムへの訪問でハワイの文化に触れることができたこと、また、ウクレレフェスティバルでのボランティア活動にも参加することができたことなど、多くの課外活動ができたことである。これらの多くの体験や、活動に参加できたことで、より多くのことを学び、より多くの人々と出会うことができ、その中で自分の英語の能力と向き合うことができたことはとても幸せなことであった。

英語を現地で学ぶ中で私が最も苦労したことは、頭で浮かんだことを英語で相手に伝えることはとても難しいという点であった。私はもとから英語が得意ではないため、「これを話したい」「これを説明しよう」という気持ちがあっても、なかなか英語が出てこなかったり、それが長い文章であればあるほど、文章の組み立てが、日本語の場合と英語の場合では異なってくるため、スムーズに話すことができず、何度も悔しい思いをした。その時はすぐに長い文章を話すこともできずに、諦めそうになったが、今思うと、英語はすぐに話せるようにはならないものであり、悔しい思いをしたその都度、新しい知識を得て、そうしていく中でどんな時にどんな使い回しをしたら良いのかを知って自らやり方を試行錯誤し自分のやり方で学んでいくことが大事なのだと改めて感じさせられた。そしてこのことは、どこに居ても、どんな環境に於いても大事なことであると学んだ。

私にとってハワイでの３週間は、ただ単に多くの美しい自然に囲まれ、ハワイの素晴らしい文化に触れながら、楽しく過ごすことができたということだけではなく、このような環境の中で、多くの人と出会い、自分の能力の現実と向き合い、どんな環境の中でも成長する為にはどうしたら成長できるだろうかと、自ら考え工夫しながら前に進み続けることのできた、本当に充実した時間となった。語学研修は、ハワイでは物足りないものとなるのではと、不安に感じることもあったが、語学習得だけではなく、今後の人生にも生かしていきたい教訓を学ぶことができ、素晴らしい経験となった。

表現学部表現文化学科　嶋本　悦子

私は今回の「ハワイ大学春季集中講座」で初めて海外に行きました。やはり、初の海外旅行ということで、出発するまでにはハワイでの生活面、勉強面での不安がありました。出発当日、6時間のフライトを終え、ホノルル国際空港に到着すると、日本では見られない常夏の世界が広がっていました。空港からはバスで移動し、最初に向かったのは「マウナガーデン」です。そこは周り一面が緑で埋め尽くされている広い公園のようなところでした。そこのベンチに座り、長時間のフライトの疲れを癒しました。その後は、パールリッジセンターというショッピングセンターでハワイに来て最初の食事を摂りました。私はそこであるファストフードのサンドイッチを食べたのですが、その大きさが日本の標準サイズの2倍近くあり、びっくりしました。それでも味は極端についているわけではなかったので美味しかったです。2日目は日曜日だったので、皆で観光を楽しみました。その日はパンチボールの丘でボランティアワークがあり、模擬店のお手伝いをしました。最初は何からやったらいいものか分からず、焦っていると担当の方が優しく声をかけてくれました。そこでやっと仕事に打ち込むことが出来て、あっという間に定時になり、ホテルに帰りました。そして、翌日からはハワイ大学での3週間の語学研修が始まりました。ハワイ大学の先生方は私たちを温かく迎えてくれました。オリエンテーションが終わり、授業がスタートしました。私のクラスではクラス全員の自己紹介をして、個人のEnglish nameを作り、3週間お互いのことをそれで呼び合う形になりました。クラスの雰囲気もアットホームな感じで先生も穏やかな方でした。そこからは2人1組でペアになってペアワークをやる時間や、Interchangeといって、ハワイ大学の学生と話す時間もありました。私は特にInterchangeの時間が授業の中で最も有意義に過ごせた時間だと思いました。日本人同士だと日本語混じりの英会話になってしまいがちですが、ハワイ大学の学生は滑舌よく英語を話していたので流石だなと思いました。そんな状態だからこそ私が言いたいことが上手く伝わるかとても不安でした。しかし、彼らは私が言いたかったことをちゃんと理解してくれました。それからは会話も弾み、あっという間に時間が過ぎ去っていきました。2週目の月曜日はアメリカでは休日にあたる日だったため、クラスの皆と先生でハワイの街を観光しました。ダウンタウンの方まで行って、カメハメハ像や教会、市役所などの歴史を学びました。観光が終わったあとはクラスの皆と先生で食事をしました。そこのレストランは海が目の前にあって景色がとてもいいところでした。料理もおいしくて、楽しい時間だったと思います。同じ週の水曜日にはハワイでおなじみのhulaを踊りました。私はhulaを実際に見るのも初めてで、踊るのも初めてだったので楽しみにしていました。一見簡単そうに見えますが、hulaには何種類もの動きがあって、とても難しく感じました。しかし、先生のレクチャーにより楽しく踊れました。

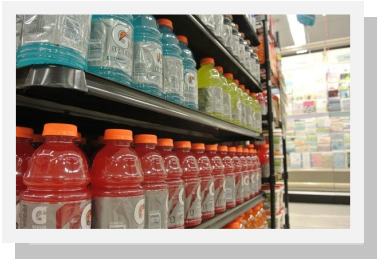
また、週末には映画館に行ってアニメーション映画を見に行き、Wet and Wildというハワイで有名なプールのテーマパークに行き、というハードスケジュールながらもハワイで過ごす週末もあっという間に終わってしまいました。そしていよいよ最終週。いつものように授業が進み、金曜日にはGraduation Ceremonyが行われました。この3週間を振り返ってみると数々の思い出がよみがえってきました。3週間お世話になった先生方のお別れも何とも言えない気持ちでした。肝心の英語力はしっかり身に付いたとは言えませんが、研修前より英語を話すことに自信がついたと思います。それだけでも私はこのプログラムに参加して良かったと思っています。これを糧に今後も何かしらの挑戦を自分の中で続けていこうと思っています。また機会があれば海外に行ってみたいというきっかけづくりにもなりました。

最後に、ハワイ大学の先生方、大正大学の先生方、そして一緒に行った皆さん、素敵な時間をありがとうございました。

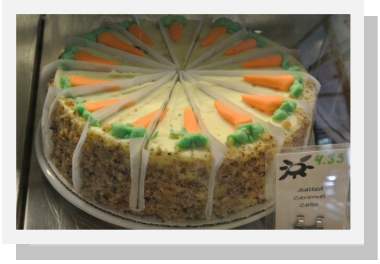
人間学部人間科学科　道端美祐紀

私はハワイに行って多くの写真を撮った。きれいで透き通った海、魚、大きな木や不気味な植物、格好いい外人、小さなイケメン、友達、そして食べ物である。

テレビで見るような赤、緑、黄色、青などの色とりどりのお菓子やケーキドリンクを多く見かけた。可愛らしくて食べるのが勿体ないと思わせるものもあれば、これは口に入れてよいものなのかと疑ってしまうようなものもあり、日本にはないそのカラフルさは私たちを楽しませた。ハワイにある色とりどりなものは食べ物だけにとどまらない。



なんとも体に悪そうな食品



ハワイではその服装においても色とりどりである。道で見かける人もそうだが、売っている服や水着も蛍光のピンクや黄色、鮮やかな青などが多く、日本から持て来た服装では「自分が地味すぎるのか」と自分のファッションセンスを疑うほどであった。初めはこの色はさすがに派手すぎると敬遠していた服装も、数日経つ良く見えてくる。私は買うまでに至らなかったが、ハワイにいた日本人女性の観光客の中には、ハワイで買ったであろう赤や青の派手なワンピースを着ているのをよく見かけた。しかし、そのワンピースは日本に帰国して暑い季節になったとしても着ることはないだろう。ハワイマジックなのである。常夏な気候やハワイの文化が持つ精神が、ハワイの土地にはあるのだ。

ハワイの精神を私はフラから感じることができた。私たちにフラを指導してくれた方は、ものすごいエネルギーに溢れていた。その笑顔や言動からもパワーを感じたが、なによりも一番初めのハグに衝撃を受けた。テレビや映画などで外国の人がハグをしている場面はよく見ていたし、ハグをしたことがないわけでもなかったが、この時のハグは今までのハグとは別物のハグであった。暖かく包みこまれ、力強い優しさがあり、人を安心させる、これがハワイのマナと呼ばれるエネルギーなのかと感じた。

そして、年中観光客が絶えないであろうが、特に日本が冬であるときにはもっともありがたい場所である暖かい気候。乾燥や底冷えする寒さに凍てつく風から解放されるハワイは、日本のそれを忘れさせてしまうのだ。

このような暖かく力強いパワーを持つハワイの土地や常夏である気候が人々の服装に、日本にはない華やかさ、派手さの影響を与え、わたしたち日本人までもハワイにいる間はその影響を受けるのだろう。

。

人間学部臨床心理学科　飯塚　美有

今回の研修では英語でのコミュニケーションをはじめ、異文化や歴史を学ぶことが目的とされていた。大学では英語での講義をはじめフラダンスの体験や現地の学生との交流の機会、ハワイ文化を体験する機会もあった。フラダンスの講師の方が、祖先が様々な苦難を乗り越え守り、伝えた伝統を大切にしてほしいということ。そして自分が誰で、どこの出身であるかということも大切にしてほしいというお話があった。それは独立国家からアメリカに併合された歴史や、異国からの移民の歴史をもつハワイ特有の文化であると感じた。また、フラダンスは自然を愛し、感謝したハワイの人々の思いが強く表れていた。それは日本の豊かな自然を愛する自然観、生命観と似た部分をかんじた。ハワイ日本文化センターでは、ハワイにおける日本人移民の差別の歴史を学んだ。人間としての尊厳を奪われ、奴隷のようにプランテーションで毎日働いていたこと。働きが悪ければむちでたたかれ、劣悪な環境のなかで生活していたことを写真とともに説明を受けた。私はそこでハワイへの認識が変わった。常夏の美しい島というだけの浅い認識ではなく、同じ日本人が辛く苦しい思いをした地であったこと。そして、その仕打ちに暴力で反抗しなかった日本人の誇りが存在することを学んだからである。今回の研修を経て、今ある幸せが昔生きた人々の選択のうえにあるということを強く思う。ハワイにて語学研修が行えることは直接的に支援してくださった方たちのみでなく、わたしたちの祖先を含めたはかりしれない悲しみや苦労、そして戦いのうえにあるということを知ることができた。特に私が印象に残った場所はパンチボールの丘である。そこには戦争で亡くなった多くの人が埋葬されている。その中のいくつかには“No name”と掘られたものもあった。そこからも戦争の犠牲がどれだけ大きく悲惨なものであったかを感じた。また、そこには大きな女神像が墓地を見守るようにたっているのだが、その顔は戦争で多くの犠牲がでたことへ怒りを表していた。この女神像は当時の人々の怒りや憤り、悲しみが投影されているのだと感じた。ハワイの人々が戦争によって大きな傷を負ったという歴史をここからも知った。

大学の講義では課外授業があり、ダウンタウンをまわりながらハワイの歴史について学ぶ機会があった。そこでは、独立国家であったハワイがアメリカに併合されるまでの苦労や悲しみを知った。日本は第二次世界大戦後、間接的な支配を受けた以外他国に併合されたことはない。一方でアメリカの侵略から自分たちの文化を守らなければならなかったハワイは日本よりも祖先を大切にする文化が色濃くでているように思った。どこに行っても現地の人は、祖先を大切に思うことがハワイアンスピリチュアルだと言っていたことを思い出す。ハワイの歴史を知ることで、今のハワイのあり方を深く感じることができた。そして、自国の歴史と文化をより知るべきだと思った。

また、この課外授業の最中、ホームレスを多くみた。観光業に栄え、華やかなハワイの印象からは想像できなかった状況であった。しかし、それが現実的な面なのだろうと思う。人が集まれば裕福と貧困など常に裏と表が存在することを感じた。また、チャイナタウンでは衛生面に敏感な日本人にとっては少し抵抗のある状況が広がっていた。売られている食物の管理が少し雑だったのである。そこには中国特有の世界が広がっていた。そこでも、世界各国の文化というものを肌で感じる機会となった。

ハワイで約三週間過ごして驚いたことが人の優しさ、穏やかさである。バス一つ例にとっても多くのことがいえる。例えば日本にも優先席があり席を譲る習慣もあるが、ハワイは日本以上に席を譲る文化が色濃かった。必ずお年寄りがいれば席を譲り、知らない人同士でも席が隣り合えば会話が始まり、目があえば微笑みあい、バスの中でこれほどコミュニケーションが盛んにおこなわれることにとても驚いた。また、道を聞けば丁寧に説明をしてくれるし、ホテルでエレベーターに乗り合わせると必ずと言っていいほど会話が始まった。日本独特の空間とハワイの開かれた空間との違いも一つの文化の違いだと思った。しかし、ハワイには日本人移民が多かったこともあり似た文化もあった。例えばアメリカは通常靴を履いたまま自宅に入るが、ハワイには靴を玄関で脱いで家にあがる文化があるときいた。ハワイは伝統的な文化を大切にする中で他国からのすばらしい文化は受け入れる柔軟な考えがあるのだと様々な場所で感じた。

そしてこの語学研修を経て最も感銘を受けたことは、大学での生活である。私が今までどれほど狭い世界で物事を考え、時間を無駄にしてきたのか痛感した。まず大学に通う学生の幅広い年齢である。アメリカ人だからとくくることではないのかもしれないが、日本人と比べ自分の周囲のような狭い世界にのまれることがなく世界にでることに躊躇がないように思った。日本はまだ大学生といえば二十代前半が多く、社会人になってから大学に行くことは大きな決断がいることである。しかし、アメリカは二十代後半から幅広い年齢層の人々が多く在学していた。また、一人でパソコンにむかったり本にむかっている学生も多くみられ、日本のように数人で群がることが当然というような雰囲気は全くなく、自分のやりたいことをやる空気がとても強かった。また、現地の学生の中には一年間や三年間海外に留学した経験のある学生がとても多かった。日本では学生のうちに一年間以上海外に出て勉強する学生は少ないように思う。しかし、今回の語学研修でアメリカ人の思いきりを間近に感じ、私たち学生には新しい挑戦に向けて努力できる時間があること、また、どの年齢であっても強い意志があればどんなことにも挑戦できることを強く感じた。日本は人生設計が先行しすぎてしまっているのだと思う。しかし、今はただ世界に出たり、自分のやりたいことをやってみる思いきりが必要だと思える。今吸収したすべては無駄にならないと今回の語学研修を経て実感することができたからである。

海外にでて日本を離れてみると、日本はとても治安がよく思いやりがあり、相手を気遣う精神のあるとても住みやすい国であることを感じた。しかし、この財産は私たちの祖先が築きあげたものであり、私たちの祖先から受け継いだ財産を浪費するだけの生活に初めて疑問を感じた。これからの日本は私たちの世代が繁栄させ、守らなければならないのだと思う。その中で日本には開かれた世界が必要であると感じた。人と違うことは恥じることではなく、周囲に溶け込むことが必ずしも良いことではないという認識がより必要であると思える。ハワイ大学の学生のように世界に視線をむけ、世界に出るおもいきりが必要だと思う。また、ハワイ大学の講義は受容するだけでは講義に参加できない。ここにも日本の大学の在り方との違いを感じた。能動的に動かなければ何も得られないということを強く感じ、今後はそのような意識がなければ遅れてゆくばかりなのだと思った。祖先が築きあげた財産に寄りかかるだけではなく、強い意志と感謝の念が今の日本に求められると感じた。自分の成長のためには今から様々なことを見て、経験するべきだと思う。時間はどの人に対しても平等で、その中でこの時間を何に費やすのかが大きな分かれ道であることをアメリカに行ったことで痛感した。私はこれからの時間が自分次第で無駄にもなり、価値あるものにもなることを実際に感じることができた。この語学研修は将来を真剣に考えるためのよい機会となった。

表現学部表現文化学科　武末　杏奈

この春季集中講座に参加して学校生活や日常生活を通して実に多くのことを学んだ。そしてアメリカにおける文化、つまり日本とは違った文化である。私が最も感じた違いは性格である。日本では初対面の人と出会った場合、どの場面においてもまず友達であるかのように話すというのはあまり見られない。私と友達でアラモアナショッピングセンターに行った時のことである。私たちはそこである男性とすれ違ったが、もちろん知らない人だったのでそのまま通り過ぎて行った。しかし30分後に、またその男性とすれ違ったのである。私たちはその人に気づいたが、特に声をかけようとも思っていなかった。しかしその人は私たちとすれ違ったことを覚えており、気さくに挨拶をしてくれて私たちも挨拶をした。またハワイ滞在中、ウクレレフェスティバルにボランティアとして参加させてもらう機会があった。私はそこにあった出店の一つでボランティアすることになった。私が働かせてもらった店の男性はとても気さくで、通りすがる人に商品をすすめるのはもちろんだが、その人たちと初対面であるにもかかわらず、日常生活についてとても楽しそうに話していた。初対面の人に気さくに話しかけるというのは、私たちにとって難しいかもしれないが、人とのつながりを大切にするためにはこのような文化が大事であるように思う。バスの乗り方においても考え方が違う。日本人は、バスに限らず何か乗り物に乗ったりする場合はかならず列に並ぶというのが普通である。もし列を抜かしたりすれば、他の人たちは嫌な顔をしたり、怒る人もなかにはいるかもしれない。しかし、アメリカでは違う。アメリカではどんなに速くバス停に到着していたとしても、列になって並ぶことはない。また、もしバスを5分ほどしか待っていない人が、30分ほど待っていた人より先にバスに乗り込んでしまっても、30分ほど待っていた人は嫌な顔一つせず、またそんなことを全く気にしていない様子だった。初めて見たときはとても驚いたが、これを見ると日本でのこういった行動が少し恥ずかしく感じてしまう。

このプログラム通して私の中で変わったことがある。ハワイ大学の授業ではほとんどがスピーキングメインで授業が行われていた。その中でもハワイでの出来事を挙手して発表することがとても多かった。私は、挙手をすることがとても苦手で、学校では必ず最後のほうに挙手をしていた。しかし、慣れてくると挙手できるようになり2、3番目には挙手して発表できるようになった。さらに、いつも文法ばかり気にして英語を積極的に話すことに抵抗を感じていたことはなくなり、伝えようとすることが大事なので、間違えても気にせずに話すことができるようになった。また授業の一環で、ハワイ大学の生徒と私たち日本人2人で会話するInterchangeがあった。そこで感じたのが、自分の英語力の無さとコミュニケーション能力の低さである。ハワイ大学の生徒がたくさん話をしてくれる中、上手く相槌を打ったり、さらに深く質問をするというのができていなかった。会話においてこのようなことが出来ないのでは、もちろんコミュニケーションは上手くいかない。それを通して、さらに英語力をつけるとともに、日本でもなるべく多くの外国人の方たちと会話する機会を見つけ、より高いコミュニケーション能力を身につけていきたいと感じた。

今回のプログラムを通して、もっと深く英語について学びたくなった。さらに英語力を身につけまたこのプログラムに参加して、自分の英語能力を発揮してみたい。

表現学部表現文化学科　柳井　彩夏

ハワイは日本に比べ19時間遅く、時差は5時間である。

2月でも冬にしては断然暖かいが、半そででは寒かった。雨期なので、気にならない程度でも雨に濡れてしまうので、常に長そででもいいかもしれない。

海やプールで毎日にでも泳ぐ気でいたが、寒くて風が強くて波が高いし、自由時間が思ったよりなかったので、ビーチで一度ウェット＆ワイルドで一度泳ぐきりとなった。避寒地として買い物に来たり観光したりするのには冬のハワイはいいかもしれないが、真にハワイを楽しもうとするなら夏のハワイが良いだろう。また、時間の使い方も大事だ。私はほとんどの自由時間を買い物・休憩・料理に使ってしまったような気がする。毎回フードランドやウォールマートなどのスーパーでたくさん食料を買っていたつもりだったが、どうしても野菜や飲み物が足りなくなり何回も買い物に出かける羽目になった。語学研修では平日の午前中は授業なので、午後にできることが限られてくる。丸一日自由な日というのは少なく、遠出するならこのフリーな日にかけるしかない。もちろん課題もあるし、基本的に忙しいので、24日間はあっというまに感じた。

ただその分、気の合う人と行動を共にした方がいいと思う。ひとりでビーチへ行くことや、町へ出て買い物に行くというのは危険で出来ないので、なるべく自分がしたいことができる24日間にしてほしい。

また、チップ制というのがややこしい。レストランなどでだいたい代金を15～18%上乗せして払うのだが、イエスノーはっきりしているアメリカの中で唯一もやもやする点だと思った。アルバイトやホテルの従業員はチップで生活しているようなもの、といわれても日本人の私には理解できなかった。計算するのが面倒な場合は、勘定書に「Tip15%」などとサインしておけば勝手にその分引いてくれる、というのを帰国後に知り、そうすれば楽だったのにと後悔した。

飲み水について、親からはハワイの水道水は美味しいと聞いていたが、私たちが泊まったホテルの水は土の味がするようでまずかった。ホテルによっても違うのかもしれない。沸騰させてお茶を煮出したりすれば飲めなくはないし、お腹を壊すこともなかったが、飲み物はスーパーなどで買う方がいい。この語学研修のように3週間以上と少し長い間滞在する場合はスーパーでまとめ買いするといい。大きなペットボトルや紙パックで買ってもいいし、500mlが何本もセットになっているものもある。持って帰るときだいぶ重いので注意。

ハワイの食べ物は安くないが、そのぶん量が多い。7ドルくらいで照り焼きチキンプレートを頼むと食べきれないほどだ。小食の人なら友人と割り勘して半分ずつ食べるのが、お金の節約にもなっていいと思う。

海外で食べる日本食もなかなかいいものだと思う。入りはしなかったが、寿司屋さんをたくさん見かけた(NINJA SUSHI、元気寿司など)。カリフォルニアロールはやはり人気があるようだった。しかし海外で生ものを食べるのが不安だという人もいるだろう。

ワイキキにある丸亀製麺がとても繁盛していた。機会がなくていけなかったが、夕飯時には長い行列ができていて40分以上は並びそうだった。店内には日本人が多かったが、現地の方や、たぶん他の国から観光に来ているのだろうお客さんもいた。アメリカ本土の方からすると、ハワイはバカンスできる地であり、また同じ国でありながら日本文化も楽しめるところなのだろうと感じた。

アラモアナのフードコートにも日本食の店があり、天丼や親子丼、豚汁などを売っていた。しかし親子丼の卵は硬く、うるち米が使われているのはいいのだがあまり食感がよくなかったので、親子丼は日本で食べよう。

日系の方が大勢住んでいるからか、日本人の口に合う食べ物も多くある。スパムむすびやシェイブアイスなど、日本でも売ってほしいほどだがハワイで食べるからこそいいのだろうか。

マクドナルドはジュースのサイズが大きく、少しフィレオフィッシュの魚の骨が目立つだけで、あとは値段・味とともに日本とまったく変わらなかった。ココナッツパイやダブルフィレオフィッシュなど、日本にはないメニューが楽しめる。本当に日本でも売ってほしい。

テディーズビガーバーガーというファストフード店は、アメリカの一食の量の多さを痛感できる。サイズはスモールやミディアムが無く、「ビッグ」「ビガー」「ビゲスト」の3種類だ。

エッグスンシングスという美味しいパンケーキのお店もある。ここのパンケーキはとても一人では食べきれないどころか、二人でも食べきれなかった。しかし残してしまったとしても、無料で持ち帰りの箱がもらえるので心配しなくてもいい。

二店ともハワイに行ったらぜひ食べにいってほしい店だか、実はそれぞれ渋谷と原宿に店舗があるのである。

薬については、この語学研修で必ず風邪薬を持っていった方がよいと学んだ。旅行先で急な病気にかかった時、現地で医薬品をそろえるのは不安だ。効能や成分、効き目の強さなどが分かりづらいので、普段使っている薬をもっていこう。長期滞在に限らず、一週間やもっと短い旅行でも必要だと思う。なぜなら、私自身ハワイ3日目で風邪をひいたからだ。たぶん時差と気温と疲れにやられたのだろう。

虫が思ったよりもいなくて、虫よけスプレーを使う機会はなかった。

中にはそうでない人もいるのだろうが、私が出会ったハワイの人々は皆が親切で優しく良い人だった。観光地だけあって、現地の人は外国人になれているのか道を尋ねたりしてもスマートに対応してくれた。単語だけのつたない英語や、まして日本語が通じる人が結構いるので言葉に関しては悩まなくていい。逆に、本気で英語を習いに来た人にとってはそこが悩みの種になるだろう。

でも、ハワイに滞在して後悔することは絶対にないと言っていいほど、良いところだと思う。

唯一がっかりしたのは空港でスーツケースが壊れたことだろうか。

気になったこと・課題

・現地の人は飲み水をどうしているのか？

・チップ制についてもっと詳しく知りたい

・Bus Passを自分で買うときはどうすればいいのか

文学部人文学科　松田　郷平

今回このプログラムに参加しようと決めたのは、「自分の英語力を試したい」・「海外で英語を学びたい」と思ったのに加えて、「日本と違った文化を体験したい」と思ったからだ。もともと、海外に興味があり、様々な国の多様な文化、価値観、人に触れたいと考えていた。二回目の海外で、憧れの地であるアメリカだったので、自分にとって得られるものが多いのではないかと期待が大きかった。

大学では、私たちは３０人という大所帯だった為、２クラスに分かれた。主に英語でコミュニケーションをとることに重点が置かれ授業が行われた。そのため、テキストを読んだりすることはあったものの、文法などの授業はなかった。授業の最初に、前日に自分が何をしていたかをクラスに発表するということをした。単純に「買い物に行った」と言うのではなく、「いつ」「誰と」「どうやって」「どのようなサプライズがあったのか」など事細かく話さなくてはならなかった。これにはとても苦労した。詳細を話すということに慣れておらず、詳しく話す為のボキャブラリーが少なかった為である。

ハワイ語や、フラダンスなどハワイの文化に関する授業も行った。ハワイ語のつくりは日本語に似ていて、子音の後には必ず母音がくるようになっていた。言葉自体も言いやすく、発音の決まりなどもあった。ただ、単語が特徴的で短いものからとても長いものもあり、全て覚えるには一苦労しそうであった。

インターチェンジも行った。私たちは２人または３人に分かれ、その中にハワイ大学の生徒が１人入って会話した。内容は、自己紹介やそれぞれの好きなマンガやドラマ、俳優、音楽、など他愛もない日常会話だった。会話の中で自分の分からないこと、相手が理解していないこともありその都度説明を必要とした。頭の中では日本語で考えてしまうため、それを話そうとすると時間がかかってしまう。そうなると会話が止まったり、先へ進んでしまったりする。最初はそのようなことがあったため、会話に参加することが少なくなってしまっていた。そこで、考えるのをやめてとりあえず話に参加することにした。会話を聞きとって、単語だけでも話すようにした。単語も出てこないときは、日本語で話してパートナーに助けてもらった。そうすることで会話にも参加でき、参加しようとする姿勢を見せるだけでもハワイ大学の生徒も私が話すのを待ち、単語から汲み取ろうとしてくれた。

大学での授業を通して、自分の勉強が不足していた事を痛感した。しかしながら、悪いことだけではなかった。自分から話そうとすれば聞いてくれるし、分からなければ助けてくれる。まずは、自分が話そうとする姿勢、一歩踏み出すことが大事なのだと気付かされた。

大学以外に文化研修として、様々なところを訪問した。ハワイ浄土宗別院、天台宗ハワイ別院。私たちの大学は宗教系の大学であるため、この２つの寺院にお邪魔し、貴重な体験をすることができた。浄土宗では、総監でいらっしゃる原元照師より、天台宗では副住職の荒先生よりご法話をしていただいた。話していただいた内容もさることながらお２人にお会いできたことが何よりも嬉しかった。建物も立派で、ハワイに仏教が根付いている事がよく分かった。

日本ハワイ文化センター。ここでは、日系移民の歴史や伝統を学んだ。ガイドの方による説明で、当時の日本人が感じた痛みや辛さがひしひしと伝わってきた。アメリカンドリームを抱いてやってきた日系移民たちが、差別や戦争にも屈せず、必死に生き抜いてきた歴史を知って、日本人の人としての素晴らしさや、日本人の生まれ持つ誇りというものを感じとる事が出来た。

ビショップミュージアム。ハワイ王家伝統の美術工芸品はもとより、ハワイと太平洋の島々に関する展示物があった。髪の毛でつくられた首飾りや、人の形をした木や石の工芸品、デスマスクなどここでしか見られないものがたくさんあった。また、ハワイの自然に関するパビリオンもあり、ハワイに関すること、歴史、伝統、自然が網羅されていた。

ホノルル美術館。ハワイ最大の美術館で西洋と東洋、両方の美術品を見ることができた。館内ツアーはでは、英語によるガイドがあった。ひな祭りに関する展示や仏像など日本の伝統に関する説明を英語で聞くのはとても新鮮だった。説明がとても詳しく、日本人でも知らないようなことが多々あった。

様々な文化があるハワイで、日本の素晴らしさ、日本人の素晴らしさ、日本文化の素晴らしさを、日本の絵画や展示物から知ることができ、この文化研修はとても意味のあるものだった。

私たちの滞在するホテルから大学へは、バスで通学した。また、普段の生活においてもバスはとても便利だった。私たちが利用した「The Bus」には、車両が１つのシングルと車両が２つつながったダブルの２種類あった。車両自体が大きく、まさにアメリカンサイズといった感じだった。それぞれ番号がついていて、走るルートが決まっていた。時刻表はあるのだが、日本のようにバス停に表示されているわけではなく、インターネットなどで調べる必要があった。時刻表のとおり来ることが少なく、次のバスが頻繁に来るバスもあれば２０分ちかく待たなければならないバスもあり、予定があるときは前もって行動する必要があった。バス停は簡素なもので、ポールの上についた小さいボードに、来るバスの番号が書いてあるだけだった。バス停の間隔が短いため、バスは頻繁に止まっていた。運賃は、１回２ドル５０セントで、今回は一カ月乗り放題のバスパス（６０ドル）を利用した。３週間でバスに乗った回数は数知れないのでとてもお得だった。車内はというと、日本と違って、停止は紐を引っ張るタイプ、アナウンスは英語、電光掲示板はあるものとないものがあった。汚れが目立つように思えた。ガムや落書きは当たり前であった。こういった点を除けば、日本とさほど変わりなく、優先席も設けてあり驚いた。

交通に関することでもう一点。普段の生活の中で道を横断するということがよくあった。信号のない所もあり、それも交通量の凄く多い幹線道路であることもしばしばだった。日本だと、待っていても直ぐには渡れないようなところだった。しかしハワイだと、渡ろうとしていると車がすぐに止まってくれた。インストラクターからは、歩行者優先ではないと聞いていたので、止まってくれた時すごく驚いた。しかも、怒るどころか余裕の表情で、ハワイに住む人々の心の豊かさを感じた。

学校外においても、学習の場はたくさんあった。道を尋ねたり、ショッピングをしたり、普段から積極的に話しかけようと心掛けた。最初は、考えているせいか伝わらず、相手も仕事なので、学校とは違って間違っていると明らかに嫌な顔をされた。それでも、過ごしていくうちにだんだんと慣れていき、まだまだ、完全とは言えないが、会話することができるようになった。数をこなし、慣れていくことが必要であった。

今回の研修を通して、全ての生活の中心に英語というツールがあり、その中に身を置けたのはとても貴重なものであった。また、ハワイで過ごした日々から得た経験は、日本では出来ないことばかりであった。しかしそこには、自由・不自由があり、その事から日本での生活、日本の文化を再認識することができた。他国の文化に触れることが自国文化を理解することにおいて重要であると気付く事が出来た。そして、期待をはるかに超えた経験ができた。

表現学部表現文化学科　谷口　美夏

私がハワイ大学春期集中講座に参加して学んだことは、「ハワイと日本の関係の深さ」、「ハワイのアロハスピリッツ」、「間違うことを恐れずに自分から積極的に英語を話すことの大切さ」です。

私はこの集中講座で実際にハワイを訪れるまで、ハワイといえば、観光地として有名で、日本人観光客も多く、海外であるにも関わらず日本語が通じるというイメージしか持っていませんでした。しかし、約３週間という期間をハワイで過ごし、ハワイと日本の間には自分が想像していたよりもはるかに長く、深い関係があることを知りました。特にハワイ日本文化センターにおいて学んだ、日本からハワイに移り住んだ人々の歴史は大変興味深く、ハワイに来てから私が抱いていた、なぜハワイに日系人が多いのか、なぜこんなにも日本文化が根付いているのかという疑問を明らかにすることができました。ハワイで毎年夏に盆踊りが行われていることや、天台宗や浄土宗を始めとするたくさんのお寺があることを初めて知り、私は、ハワイの人々は私たち日本人よりも、日本人らしいなと思いました。休日には、真珠湾攻撃の場所として有名なパールハーバーも訪れました。資料館にも足を運び、当時使用されていた日本の戦闘機の模型を見たり、アリゾナ号というアメリカ軍の戦艦が今もなおパールハーバーの海の底に沈んでいるということを聞きました。真珠湾攻撃をきっかけとして、アメリカと日本の戦争が始まったことで、当時ハワイに移民していた日本人の心の葛藤や、生活における問題はとても複雑で印象的でした。教科書や、テレビでしか見たことがなかったパールハーバーの景色を実際に見て、戦争について改めて考えさせられました。

ハワイ語として最も知られている言葉である「アロハ（ALOHA)」。ハワイといえばアロハというくらい有名なこの言葉は、もちろん私も知っていました。しかし、ハワイ文化を学ぶ授業の中でハワイ語について勉強し、興味を持った私は、授業が終わってから自分でハワイ語について調べ、初めてアロハという言葉がもつ意味を学びました。ALOHAとは単なる挨拶の意味を持つ言葉ではなく、色々な意味を持つ言葉で、１文字づつの意味である思いやり・調和・喜び、文字の組み合わせによる意味の幸福・生命の息吹、そしてALOHAという５文字が持つ、愛・誇り・信用・歓迎の意味という多くの意味を持つ言葉です。ハワイで生活をしていく中で、現地の人と話す機会があり、アロハスピリッツというハワイ独特の精神があることを知りました。「色々なことに興味を持つことはすばらしいことだけど、who are you と where are you from この２つのことは忘れないで。」フラダンスを教えて下さった先生がおっしゃったこの言葉は私にとってすごく印象的で、この言葉を聞いたときにALOHAが愛と誇りという意味を持っていたことを思い出し、これがアロハスピリッツなんだなと思いました。

先生のこの言葉から感じることができるアロハスピリッツとは、ハワイに生まれたことへの誇り、喜びとハワイに対する愛情だと思います。このこと意外にも、バスが予定よりも遅く来ても、イライラしたり怒っている人はおらず、バスに乗り込む時はみんな笑顔でアロハと言っていました。この出来事では、思いやりというアロハスピリッツを感じることができました。どこへ行っても私たち日本人に対してアロハと笑顔で声をかけてくれた現地の人々は、このような素晴らしいアロハスピリッツという精神を持っていることを身をもって感じました。

私は大学で英語を専攻しているのですが、今回のハワイ大学での集中講座への参加を決意した時から、自分の英語力で授業についていけるのだろうか、ハワイでの生活で困らないだろうかと不安でした。１日目、ハワイに着いた時は不安しかありませんでした。しかし、２日目に参加したボランティア活動で、現地の人が出店している出店を手伝うことになり、現地の方と一緒に働きながらコミュニケーションをとる中でその不安と焦りは少し薄れ、お世話になった現地の人との会話を楽しむことができました。３日目から始まったハワイ大学での授業でも、初めは英語を話すことに不安や、抵抗感がありました。特に間違うことに恥ずかしさと恐れを感じ、積極的に話をすることができませんでした。でもいざ授業が始まり、英語を話さないといけない状況に身を置くと、分からない単語があっても、それを別の言葉で言い換える努力をしたり、知っている単語や文法を最大限にいかして相手に伝えることで抵抗感や、間違うことに対する恐れが次第になくなりました。１番楽しかった授業は、現地の大学生と自由に話をするインターチェンジです。彼らが持つ日本に対するイメージや、将来の夢のことについて話をしました。ハワイに住む、自分と同世代の学生達と話をすることは、日本にいる同世代の友達と話をすることとは全く違い、面白かったです。インターチェンジにおいても、私は、自ら積極的に話すことを心がけました。結果、たくさんのことについて話をすることができ、ハワイに同世代の友達がきでました。先生がよく、「don't be shy!!」と言っていましたが、英語を学ぶ上で、恥ずかしがらずに話すことは大事なことだと思いました。

今回、ハワイ大学春期講座に参加して学んだことは日本では体験することのできないことばかりで、私にとって貴重な経験となりました。

自ら積極的に英語を話すことの大切さを学び、英語を話すことに対する自分の考え方、取り組み方も大きく変わりました。ハワイの人々は、ハワイに愛情と誇りを持っているのを見て、私も、日本のことについてもっと知識を深め、海外の人に誇りを持って日本の良さを伝えることができる人になりたいと思います。

表現学部表現文化学科　和知　ななみ

私はハワイ大学春期集中講座に三週間参加して、多くの貴重な経験をすることができました。渡航前には、初めての海外生活に大きな不安を感じていました。また、自分の英語力が現地で通じるものなのか心配ばかりしていました。日本人は“正しい英語を話さなければならない”と思いがちなので英語を話すことに苦手意識を持っていると聞いたことがあります。私もハワイに滞在する前はそう感じていて、英語でコミュニケーションに対して積極的になれませんでした。しかし、現地でのボランティアに参加や、キャンパス内で現地の学生とコミュニケーションを取る機会などから、英語のコミュニケーションは“正しい英語を話さなければならない”と意識しすぎて黙ってしまうよりも、間違えても自分の分かる範囲で表現することや、分からなければ相手に聞いてみるといった“伝える姿勢”が大事であると感じました。そう感じるようになってからは、分からなくても積極的に話しかけて、現地の人とのコミュニケーションがとても楽しくなりました。

ハワイ滞在中には沢山の経験をしましたが、その中でも印象に残っているのが現地の人々と触れ合いながらのボランティアです。ウクレレフェスティバルで日系アメリカ人の方達の販売のお手伝いをさせて頂きました。分からないことばかりで不安もありましたが、現地の方達は一から親切に教えてくださり、ボランティアを終える頃にはやりがいと達成感を感じることができました。私がハワイでいつも感じていたことは、現地の方達はとてもフレンドリーで親切だということです。日本人は謙虚で礼儀が正しいと耳にしますが、時に同じ日本人でありながら堅苦しさを感じていましたので、ハワイの生活は、とても伸び伸びしていて心地の良いものに感じました。

次に印象に残っているのは、ハワイと日本の歴史に触れる機会が多くあったことです。日本文化センターでは、過去の日系人の暮らしぶりや仕事の様子、また中には差別で苦しんでいる様子などを映像や写真を通して知ることができました。私はハワイと日本の間の歴史に詳しくなかったので、差別の中でも努力を惜しまなかった日本人が居たということに強く心を動かされました。同時に、恵まれた環境に育っていることを実感して、自分自身が未熟であるとも感じました。

このプログラムは、1年生から４年生までの約30名が参加し、23日間、生活を共にしてきました。以前は、大学内で先輩や後輩と接する機会がなかったのですが、プログラムを通して知り合うことができ、そして互いに助け合ったり協力する場面があったり、英語を使ってコミュニケーションをしたり、新鮮で刺激的な経験であったと感じています。常に人々との出会いは自分を大きく変えてくれると私は思っています。これまでは“就職をすることがゴール”と思っていたので、将来に不安を感じて自分自身に焦っていることがありました。しかしハワイでの経験から、”就職は通過点”だと感じるようになりました。

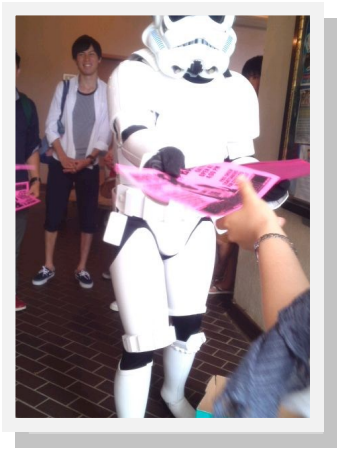
私には絵本を買えない子供たちに自分が作った絵本を届けたいという夢があります。なぜなら、世界には貧困のために学校も通えず言葉を知らない子供達が多くいます。言葉は国により異なり、時に伝わらないこともあると思いますが、絵は昔から私達の身近にある世界共通のものだと思います。絵は時に人に感動を与えてくれますし、楽しい気持ちにもしてくれます。昔から絵を書くことが好きですが、それを自分の起点にしようと思ったことはありませんでした。それは自分の中で“無理”と諦めていた部分があったからかもしれません。ハワイ滞在中に出会った人々の話、それは宗教のことであったり、ハワイと日本の関係・歴史であったり様々でした。沢山の人々の話を聞くことで人の可能性はゼロではないと強く感じることができ、自分の好きなものは妥協したくないと強く思うようになりました。

この経験は私の視野を広げ、またこれからの私の人生に役立つものだと実感しています。

人間学部臨床心理学科　廣瀬　沙和

この語学研修を通じ、自分や世の中について改めて考え直すよい機会を得ました。ハワイに行かなければ絶対知ることが出来なかったと思うのは、日本との天候の違いです。私たちは雨期にハワイに行くとのことだったので、傘は手放せないのではないかと思っていました。しかし、ハワイの雨は、日本の様に降り続けることはなく、すぐに止みます。しかも、雨は小粒で、まるでシャワーを浴びているかのような雨でした。真上は晴れているのに、風に乗って雨が運ばれてきたりもしました。その結果、よく虹を見ることが出来ました。日本では滅多に見ることが出来ないのですが、ハワイでは一日に何度も見ることが出来、夢の中にいるようでした。日本の天気以外知らなかったので、すごく新鮮な思いをしました。

次に、人々についても驚かされました。日本は単一民族なので、一目見ると「あ、日本人だな」と判別することができます。しかし、ハワイの人々は色々な血が混ざっており、その人からどこの出身であるか聞かない限り、ハワイの出身者かどうか全く分かりません。美術館や日本文化センターを訪れて話を聞く中、ハワイ純血の人々は今や1%にも満たないと初めて知りました。そして過去に大規模な移民があったことも知りました。日本からも沢山移民が行き、そのためにハワイの人々の中には日本人の面影がある方が多いと分かりました。今ハワイに住んでいる方々の多くが様々な国のハーフやクォーター、またはその方々の子供ということも分かりました。私は日本で育ってきているので、どうしても人種＝国籍が普通だと思ってしまっていました。しかし世界に出てみると、国籍はただの付加情報でしかなく、その人はその人として独立した存在であることを実感しました。ハワイ大学の学生たちはとても明るく、誰にでも友好的で、とても堂々としている人が多かったです。個性があることはいいことだ、と言っていた学生が多く感じられました。



上の写真は映画のキャラクターの格好をしてサークル活動を告知するハワイ大学の学生です。日本の大学でこんなことをやればびっくりされてしまいそうですが、ハワイ大学にはほかにも体中にペイントをしながらサークルの告知をする人や、着ぐるみを着た人など、こういったユニークな人々が沢山いたため、いつしか慣れてしまいました。

大学の規模にもびっくりしました。大学の中に大きなスタジアムがあり、私たちはバスケットボールの試合を見ました。大正大学の全生徒を招待しても入りきれてしまいそうなスタジアムでした。他校との対戦試合だったので、多くのハワイ大の関係者が応援席にいました。試合内容もすごく良かったです。どちらのチームも実力者ぞろいで、体格も大きかったです。私はバスケットボールのルールがわからないのですが、それでも楽しめる迫力がありました。試合の休憩中には各企業の宣伝タイムがありました。その宣伝の仕方もとてもとてもユニークで、私にとって忘れられない面白い出来事となりました。短い休憩のあいだにコートの真ん中に布のようなものが引かれます。そして脇の決められたラインから順番に、自分で作った紙飛行機を飛ばします。その布に書かれているゴールに紙飛行機が届けばその企業の商品がもらえます。他には、座っている観客も一体になって楽しめる宣伝もありました。スタジアムは広くて、いくつもの大きな液晶が天井からぶら下がっています。その液晶に「一番ヘアカットが必要なのは誰か？」と美容院の名前と共に枠が出て、枠の中に髪の長い観客がカメラによって映し出されます。選ばれた観客の人々は手をふったり、みんな笑顔でした。最後に「あなたが一番必要だ！」と枠が変わり、一番ヘアカットが必要な人が映し出されました。ダンス教室の「誰が一番のダンサーだ？」バージョンもあり、多くの観客が液晶に映ろうとして踊りだし、思わず笑ってしまいました。バスケットボールの試合のみを楽しむのではなく、その空間ごと楽しめるように工夫されていたのが印象的でした。

最後に、私の先生を紹介したいと思います。私の先生ロバートはとても優しい先生でした。私はハワイ大学最後の日、彼を紹介するスピーチをしました。そのスピーチをする中で私が知ったのは彼が65歳であること、2度ハワイ大学を卒業していること、ベジタリアンであることでした。ハワイでは太った方が多く見られました。しかし、そんな中でロバートは痩せており、私は不思議に思っていました。彼は私に「何歳だと思う？」と質問をしてきました。私は49歳と答えると、65歳と言われ、とてもびっくりしました。彼は、僕が若く見えるのはベジタリアンだからだよ、と言いました。インドの哲学を信じているので、肉料理は食べないそうです。他のクラスの先生方とも食事をする機会がありましたが、先生たちは一般のハワイの人よりもだいぶ痩せており、バイキング形式でしたが、肉類は一切食べていませんでした。私が会った先生方がたまたまベジタリアンだったのか、教員には元々ベジタリアンが多いのか、不思議に思いました。哲学や宗教を進行していることや、ベジタリアンなど、日本ではあまり会ったことないタイプの先生方だったので、とても刺激になりました。

文学部人文学科　石川　順英

今回、私は初めてハワイを訪れた。世界中の誰もから愛されているというイメージを持つハワイは日本との類似点、深い繋がり、絆を私は感じた。

一つ目として、食文化が挙げられる。お米を使った食べ物がとても多い。例えば、スパムむすび、ポキ丼、ロコモコなどである。また、ハワイ大学内の学生食堂にはスプーン・フォークと並んで割り箸が置かれてあった。食べている人たちを見ると、お箸を使っている人を見かけることができた。彼らの生活に当たり前のようにあることがうかがえた。

二つ目として、ハワイの文化の精神である。よく知られているハワイ語の「ALOHA」という言葉は、「おはよう、こんにちは、さようなら、愛」など様々なポジティブな意味を含んだ挨拶である。人と人を繋げる喜びの意味が込められている。「ALO」は「顔」を意味し「HA」は「息」を意味するそうだ。顔を近づけて息を確かめ合うということになる。日本でも顔を合わせ挨拶することが当たり前であり、世界共通のことでもある。では、どこが日本と似ているように感じたかと言えば、「HA」のもう一つの意味だ。「HA」には「お元気」の「気」という意味が込められているそうだ。日本人と言えば「気」という言葉が欠かせない。気が利く・利かない、気にする・しない、やる気、勇気など「気」はとても大切にしていて、生活の中で出てこないことがないことが分かるだろう。その精神がハワイにもあるようなのだ。他にも日本の長寿を願うような意味がある言葉もあった。また、ハワイには日本の八百万神のような、多くのものに神が存在しているという考え方もあるそうだ。「ke kumlipo」という古事記や日本書紀のような昔のことを記した書物も存在するらしい。これらのことは、ハワイ大学の宗教学部の先生の授業でハワイ文化に詳しい現地の方が話してくださった。どこの国でも昔からの思想や文化を大事にし、守ろうという考えは同じなのだと感じた。

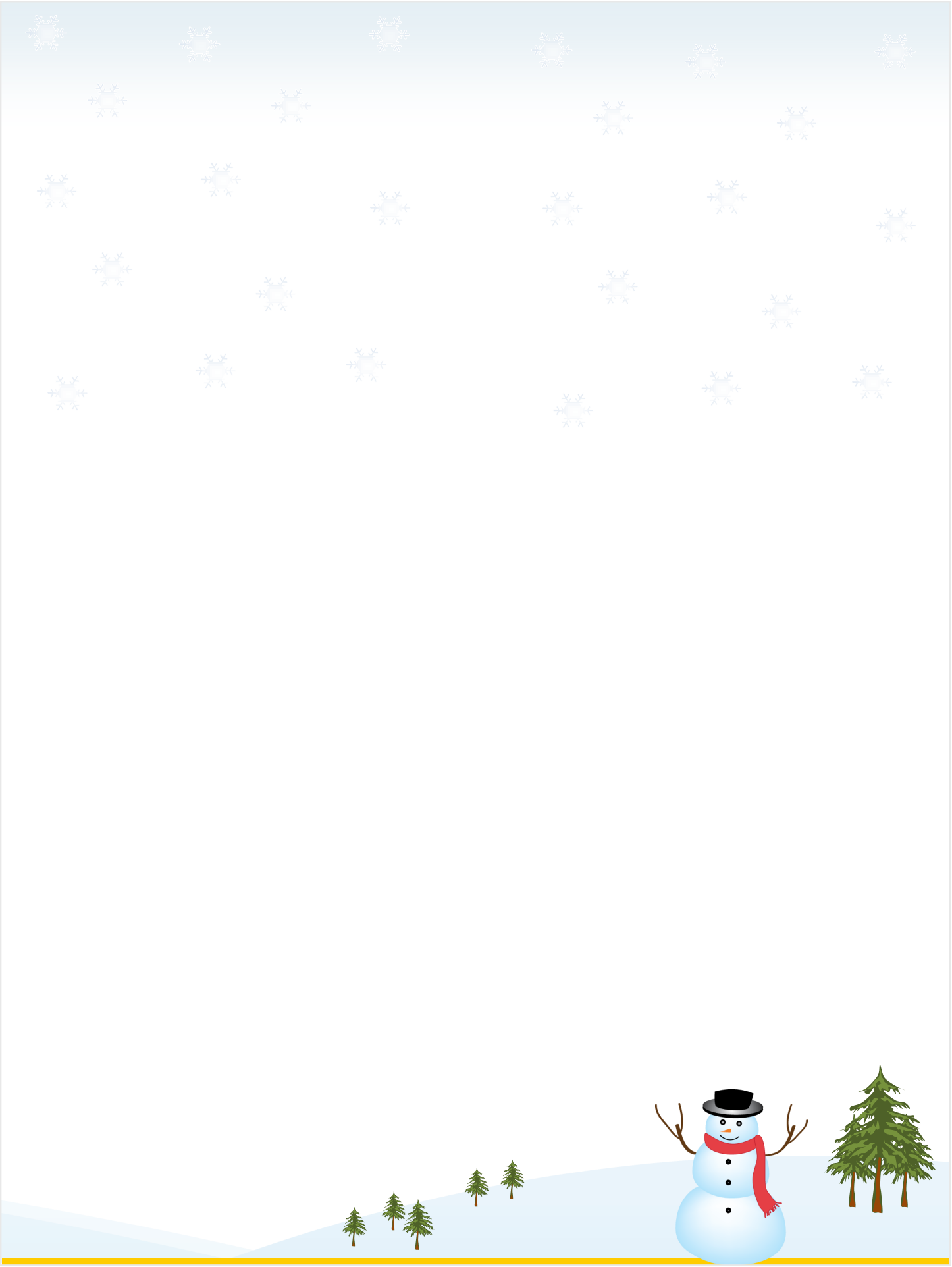
私自身が実際に体験して日本との絆を感じたことがある。それはハワイ大学内にあるお茶室を訪ねたことだ。大学で茶道部に所属している友人と突然訪問したのだが、快く迎え入れてくれた。翌週も他の友人と再び訪問した際も快く迎え入れてくれた。先生役をやっていたハワイの現地の男性の方、韓国からの学生、指導役の日本人の女性の方がいた。ハワイ大学の茶道部は裏千家だそうで、立派なお茶室「寂庵」や裏にある日本庭園は裏千家からの寄贈という話だった。また、今の大宗匠はとてもお元気で精力的な方らしく、このお茶室でお稽古をしたり、お茶会を開催したりしているという話だった。私は茶道の経験がほとんどなく友人や、先生役の方に教えてもらいながらお手前を頂戴した。お菓子もわざわざ日本から取り寄せたというものを出してくれた。このお茶室にいると裏に流れている川のせせらぎや蚊取り線香の煙、畳の感触とお茶の香りがとてもリラックスでき、ハワイにいることを忘れさせる空間だった。この空間でお茶を学ぶ外国人は日本を感じながらお茶をするということだろうか。私たちが癒しの空間と感じたこの時間をハワイ大学の皆さんも同じように感じていてくれたら嬉しいなと思った。

ハワイと日本との間で切っても切れない、忘れてはならない関係がある。それは日本人移民の人々である。私たちはハワイ日本文化センターで移民のことについて多く学んだ。「差別と偏見の歴史」とガイドの方が言っていたが、説明を聞いていると本当にその通りだったのだと感じた。楽園と夢見てハワイにやって来た日本人はさとうきび畑で労働を強いられた。

きっと「こんなはずではなかった」と思っていただろう。しかし、当時の人々は気持ちを切り替え真面目にひたすら仕事をこなしていたそうだ。ハワイへ向かう船の中の辛い時間でも日本人特有の気持ちで協力して乗り切ったということも聞いた。第二次世界大戦の時にはハワイに忠誠心を示し戦った。特に４４２部隊の活躍が有名である。日本人とアメリカ人の血が流れる人間としての心の葛藤は私たちの想像を越えるだろう。また、ここでの説明で印象的で、今も忘れられない言葉がある。ガイドの方がおっしゃっていた「日系人がいたから、今私たちは楽しく旅行ができる。」という一言だ。彼らの良い行いのおかげで今の私たちがあるのだから感謝しなければいけない。

今回、私はハワイで感じたことの１つに「日本人」という意識をもっと持つべきだということがある。外国で日本の文化に触れる事のできる機会は昔に比べて格段に増えている。食文化、会社・企業、アニメ・漫画といったいわゆるサブカルチャーなど全世界に広がり続けている。ハワイ大学でのお茶室を訪ねたような日本の文化を外国で体験してみると、自分がいかに「日本人である」という意識が薄いかが分かった。ハワイ大学での授業の一環であるInterchangeの時間でも日本のことについて話そうとするとよく理解できていなかったり、うまく説明できないことがあった。日本でこれまで学んできたこと以上のことに興味を持ち、さらに調べてみたり実際に体験してみることの大切さを感じた。そして、そのことを他の人や他の地域の人々に伝えたいという気持ちを持ちたいと思った。「日本人」として胸を張って外国を歩き、何かを伝えられるような知識が必要であるだろう。

そんなように感じた中でも、とても誇りに思ったことがある。それは、ハワイ日本文化センターにある石柱に刻まれた移民の方を支えたという言葉たちである。孝行、恩、我慢、頑張り、感謝、忠義、仕方がない、責任、恥、誇り、名誉、義理、犠牲。これら全ての言葉には現在の私たち「日本人」がどうあるべきかを示してくれているように感じたのは私だけであろうか。「おかげさまで」という言葉に支えられて私たちは生活できているように感じるのだ。古きを温め、新しきを知るという精神でこれからの時代を生き、進んでいきたいと思った。



成果は数字で測れない

報告書の中に、学生たちが強く感じ取っている「世界の中の日本」についてこう述べている。

「グローバル化が進み、日本にいながら世界と繋がることが容易になった今だからこそ、外国に行く必要がなくなったのではなく、むしろ実際に行ってみて自らの目で見たことを、自分自身で考えることがとても重要になってくるのではないかと思う。井の中の蛙になってはもったいない。」「日本の歴史からも分かる。島国だから、ということを言い訳に、なかなか世界と触れ合おうと行動してこなかった自分が、結局はすごく日本人らしいと思った。日本のことは好きであり、日本人らしい自分も好きだが、今回の経験を通して、もっと日本を知るべきだと感じ、さらに考えるだけでなく行動し世界に触れたいと思った。」彼らの言葉ですべてを語っているように思われる。外向的になれずに「内向化」になりつつある大学生たちが多い中で、このような気持ちを少しでもファシリテートできたなら、私達、国際教育を担当する者としては、今後の学生に示すべき操舵は自ずと預けられたのではないかと思う。

今後とも、きっかけを作ること、学生自らに気づきと発見を大切にプログラムの推進に邁進したいと考えている。

。

名前　ハワイ語学研修文集 2013

住所 東京都豊島区西巣鴨3-20-1
大正大学
教学支援部学務支援課
国際
電話番号: 03-5394-3039
FAX 番号: 03-5394-3039
電子メール: kokusai@mail.tais.ac.jp